

令和5年度

教育事務に関する 点検及び評価報告書

《令和4年度事務事業分》



令和5年9月

七戸町教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることになりました。

七戸町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者からなる「七戸町教育評価審議会」からご意見をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成いたしました。

この結果をこれからの施策等に反映させ、教育施策を着実に推進していきたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務
その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検・評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	令和4年度七戸町教育施策の基本方針・・・・・・・・	5
III	令和4年度教育委員会の活動状況について・・・・・・・・	18
IV	令和4年度教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員 からの主な意見・・・・・・・・	19
V	令和4年度施策別主要事業一覧・・・・・・・・	21
	各事業評価シート・・・・・・・・	22～89

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の対象

(1) 点検・評価の対象

七戸町教育施策の方針に基づいて実施する学校教育、社会教育、社会体育、文化財保護と芸術文化振興等の各分野を構成する主な事務事業を対象に点検・評価を行った。

(2) 点検・評価の方法

各分野、施策に属する事務事業を点検・評価するため、事務事業ごとに事業費、目的、事業効果等を整理し、その結果に基づいて事業評価及び今後の取組等について記載した。

(3) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が実施した点検・評価の客観性を確保するため、教育評価審議会を開催し、教育に関し学識経験を有する者（教育評価審議会委員3人）から意見をいただき、点検・評価の実施と報告書の作成を行った。

2 点検・評価作業の経緯

令和5年	6月30日	第1回教育評価審議会
	7月12日	第2回教育評価審議会
	7月28日	第3回教育評価審議会
	〃	教育評価審議会が令和4年度教育委員会の事務事業に対する意見書を提出
	8月21日	文教厚生常任委員会において本報告書（案）説明
	8月31日	教育委員会定例会において本報告書（案）を承認
	9月4日	町議会定例会に本報告書を提出

3 評価報告書の公表

七戸町ホームページに掲載し公表する。

4 点検・評価に際し、委嘱した学識経験を有する者

七戸町教育評価審議会

委員 澤田 良子

委員 中村 美知代

委員 伊藤 清治

5 前年度（令和3年度事務事業分）の点検・評価における教育評価審議会委員からの意見に対する説明

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>1 教育支援委員会の事業については、特別支援教育に対する保護者への不安や抵抗感を緩和し、充実した学校生活を送ることができるよう、早めの気づき・対応に努めていただきたい。健康福祉課との情報交換等は早い段階から情報共有するとともに、小・中学校との連携についても非常に重要であることから、十分配慮し積極的に取り組んでいただきたい。</p>	<p>教育的支援が必要と思われる子どもの就学相談に関する案内をこども園や保育園を通じて保護者に周知しており、就学相談を進める過程で保護者面談の際に特別支援に関する丁寧な説明を行い、理解を深めていただけるよう引き続き努めてまいります。</p> <p>また、保健師とともにこども園や保育園を巡回訪問し状況把握に努めており、早期から対応することで充実した学校生活を送ることができるよう適切な支援に努めてまいります。</p>
<p>2 公営塾運営事業については、新たに組み込んだ事業であり、当町には魅力的な高校があるということをこれまで以上に町内外に発信し、事業効果を最大限に活かすために積極的に取り組んでいただきたい。</p>	<p>町内外の中学校で行われる高校説明会での広報活動、中学生を対象とした体験会の実施やウェブサイトによる活動紹介など『七戸公営柏葉塾』の周知に取り組んでまいります。また、住みたい・住み続けたいと思えるまちづくりを推進するため、生徒一人ひとりの基礎的な学力向上と持続可能な地域づくりを担う人材育成の場として、実効性のある公営塾の運営に努めてまいります。</p>
<p>3 ICT支援員派遣事業については、教職員の資質向上や毎日の錯綜する業務の中で支えになっていることから、継続して取り組んでいただきたい。</p>	<p>児童生徒1人1台タブレット端末を効果的に活用できるよう引き続き支援してまいります。同時に、教職員のスキルアップを図るため関係機関と連携し、情報活用能力向上を目的とした研修等の受講機会を増やしてまいります。</p>
<p>4 新任教職員のふるさと研修事業については、当町は多くの文化財等を有しているため、後世にしっかり伝えていくことを念頭に置きながら、実施時期の調整を十分に行い、継続していただきたい。</p>	<p>七戸町の歴史的な遺産及び史跡など歴史、文化について理解を深める機会であることから、学校の夏休みの限られた期間の中で他機関と日程調整を行い、継続実施してまいります。</p>

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>5 国際交流事業については、新型コロナウイルス感染症対策により小規模であるが開催することができている。事業の目的達成のため継続して行くことが大事であると考えるので、子どもたちの参加意欲が高まるようなプログラムを企画するなど、事業の推進に取り組んでいただきたい。</p>	<p>国際化に対応できる人材を育成するため、英語学習以外に町内在住の外国人を講師に招き、母国の文化を紹介する異文化体験教室を企画し、実施に向けて取り組んでまいります。</p>
<p>6 青少年育成七戸町民会議については、あいさつ運動の実施効果が見られ、子どもたちがよく育っているように思われる。青少年健全育成者研修会については、町民意識の高揚を図る目的があることからオンライン開催にするなど工夫しながら進めていただきたい。</p>	<p>青少年健全育成研修会について、対面での開催が困難である場合にはオンライン配信（しちのへちゃんねるの活用）を検討してまいります。</p>
<p>7 文化芸術鑑賞事業については、小さい頃から様々な文化芸術に触れることは、子どもの成長過程でとても重要なことであるため、教職員に視野を広げていただき、そのことで子どもたちの経験や視野が広がっていくよう取り組んでいただきたい。また、鷹山宇一記念美術館を活用することで、子どもの頃から美術館に親しみ、大人になってからも美術館に足を運ぶような循環を作り出せるよう取り組んでいただきたい。</p>	<p>令和4年度より、文化・芸術・異文化体験を実施する町内のこども園や小中学校に対し補助金を交付し、文化や芸術に関する事業を展開しております。</p> <p>また、鷹山宇一記念美術館の指定管理者とのモニタリングを通じて、子どもから大人まで芸術に触れ、親しめる特別展の開催を促してまいります。</p>
<p>8 公民館事業及び図書館事業については、七戸地区と天間林地区で各種事業を実施しているが、年間活動の一部を共同開催するなど実施方法を工夫し、これまで以上に情報共有しながら、事業効果や今後の取り組みなどについて長期的に統一していく方向性を見出していきたい。また、ボランティア活動の育成支援事業など両地区の活動が伝わるよう各種活動事業を整理し、事業評価シートの分類方法を検討していただきたい。さらには、事業を検討していく過程で新しい図書館の整備などについても議論していただきたい。</p>	<p>公民館事業は可能な範囲で各事業の合同開催を実施しており、今後も地域のニーズに合わせ事業の展開を図ってまいります。</p> <p>また、ボランティア活動の育成支援事業については、両地区の活動を把握できるようにするため、中央図書館の事業評価シートを追加することといたします。</p> <p>図書館整備については、長期的な視点で今後の公共施設の在り方を町長部局と議論を進めてまいります。</p>

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>9 ニツ森貝塚館及び文化交流センターについては、旧校舎の利活用や施設の老朽化など維持管理に課題があることから、将来的に価値あるものを後世に伝えていくため、長期的な視点で事業の展開方法及び施設の整備などについて十分検討していただき、方向性を見出すよう取り組んでいただきたい。</p>	<p>七戸町公共施設等マネジメント計画に基づき、施設の耐用年数を考慮しつつ、不具合の早期把握・修繕等を行い、施設の長寿命化を図り継続利用に努めてまいります。</p> <p>また、人口減少や町財政等を考慮し、既存の施設の活用や複合的機能も含めて施設整備を検討してまいります。</p>

Ⅱ 令和4年度七戸町教育施策の基本方針

七戸町教育委員会は、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、

- 1 「生きる力」を育むための、子どもたちの未来のための、学校教育
 - 2 学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上
 - 3 伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成
 - 4 生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供
- を、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

—「生きる力」を育むための、子供たちの未来のための、学校教育—

学校教育の方針と重点

1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

2 重点

(1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 教材研究の深化と魅力的な授業づくりの推進

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- ・ 言語活動の充実を図り、学習意欲を高めるために、解決する必要感のある「めあて」（学習課題）の設定と解決の「見通し」を持たせる場の工夫
- ・ 自己の考えをもって、広げ深める対話的な学びを促す学習形態や発問の工夫
- ・ 目指す資質・能力の明確化・児童生徒の習熟の程度の把握・教材研究の深化に基づく、「習得・活用・探究」の学習過程を大切にした授業の実践

イ 指導と評価の一体化

- ・ 評価の観点に対応した指導と評価の一体化の充実
- ・ 必要に応じた補充的学習や発展的学習の導入
- ・ 学習内容の定着を図る「まとめ」の工夫と目的に応じた「振り返り」の視点の設定

ウ 学習環境づくりと学習習慣の確立

- ・ 学校間や家庭と連携した学び方や学習習慣の確立
- ・ 学習意欲を高める教室等の学習環境の整備
- ・ 読書習慣を身に付けるための読書活動や学校図書館の効果的な活用やタブレット端末等の効果的活用

(2) 道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。

ア 指導体制の整備・充実

- ・ 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心とした、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実と校内研修の実施
- ・ 各教科等体験活動などの指導の時期や内容を示した別葉の作成・見直し

イ 道徳性を養う指導の充実

- ・ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫
- ・ 道徳の時間との関連性を明確にした体験活動の年間指導計画の作成・見直し
- ・ 児童生徒の発達の段階や特性等を考慮し、道徳科の特質を生かした多様な指導方法の工夫

ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実

- ・ 家庭や地域社会との連携、協力体制の整備・充実
- ・ 我が国や郷土の伝統・文化に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
- ・ 郷土教材及びその素材の保存と共有、開発と活用

(3) 特別活動の充実

一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

ア 話し合い活動を生かした学級活動の実践と改善

- ・ 教科等と横断的な視点に立った年間指導計画の作成および見直し
- ・ 望ましい人間関係づくりや、生活をよりよくするための活動の工夫
- ・ 話し合って合意形成を図り、主体的に実践し、振り返る活動の充実

イ 主体的に活動する児童会活動・生徒会活動の工夫

- ・ 指導のねらいを明確にした活動内容の設定
- ・ 児童生徒の発想や計画を生かし、自治的・自発的な活動の指導・支援の工夫

ウ 児童の個性を図り、伸長と触れあいを深めるクラブ活動の工夫

- ・ 児童の自発的な発想を生かしたクラブ活動の工夫
- ・ クラブ活動の教育的意義について共通理解を図り、児童が必要に応じて話し合い活動をするなど、協力して運営できる指導の充実

エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

- ・ 教育活動全体を見通した調和のとれた学校行事の指導計画の作成
- ・ 行事のねらいや意義を理解させ、一人一人の児童生徒に具体的目標を持たせるための指導及び運営
- ・ 学校行事の評価の工夫

(4) 体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

- ・ ICTや話し合い活動を取り入れ、自己の能力に適した課題を見つけることができる指導の工夫

- ・ 体力テストの分析から、個人・集団の課題の明確化と課題解決に向けた具体的取り組みの充実
- イ 保健教育の充実
 - ・ 児童生徒の心身の健康状態を把握し、個人や集団の課題を明確にした指導の充実
 - ・ 教科体育・学級活動等における保健学習及び保健指導等、教育活動全体を通じた体系的な保健教育の充実
- ウ 食に関する指導の充実
 - ・ 肥満傾向や過度の痩身、偏食、アレルギー等の個別指導が必要な子供への指導における担任、養護教諭と保護者との連携強化
 - ・ 児童生徒の食生活の実態を踏まえ、望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実
- エ 安全管理及び安全教育の充実
 - ・ 各学校の実情に応じた危機管理マニュアルの見直し及び危険を予測し、安全に行動できるようにするための発達段階に応じた指導の工夫
- オ 健康・安全のために、家庭や地域社会及び関係機関等との連携の推進

(5) 生徒指導の充実

一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。

- ア 自己指導能力を育む協働的な指導体制の充実
 - ・ 全教職員の共通理解に基づいた実践項目の設定と校内研修等のさらなる充実
 - ・ 「校内いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応及び組織的な初期対応の充実
 - ・ 問題行動・不登校等への組織的な取り組みの充実及び取り組み状況を定期的に点検・改善する機会や場の設定
 - ・ 児童生徒の健全育成を図った学校間、家庭、地域社会及び関係機関等との連携
- イ 生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実
 - ・ 児童生徒との信頼関係を基盤とし、生徒指導の機能を生かした授業や取り組みの充実
 - ・ 個に寄り添った教育相談体制及び組織的な初期対応の充実
- ウ 児童理解・生徒理解を深める教育相談の実施
 - ・ 児童生徒の内面理解に努める組織的な教育相談体制の充実
 - ・ 日常的な指導状況等についての教職員間及び保護者との確実な情報共有
- エ 児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底
 - ・ いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりの実現にむけて、児童生徒が主体となるいじめ防止活動の継続及び工夫・改善
 - ・ 外部専門家を活用した児童生徒の些細な変化に関する情報の素早い共有、及びハートフルリーダーを中心とした組織的な対応

(6) キャリア教育の充実

一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力の育成に努める。

ア 指導体制の整備・充実

- ・ 学級活動をキャリア教育の要として位置付けた全体計画及び年間指導計画の作成・見直し
- ・ キャリア教育で育む資質・能力や具体的な指導場面等について全教職員で共通理解を図る場の設定

イ 現在及び将来の生き方を考え、行動し、活動の過程を記録する指導の充実

- ・ 学級活動の中で将来の夢や目標について考えさせたり、学ぶこと、働くこと、生きることの結び付きについて、身の周りにある課題を解決するために主体的意思決定に基づいて協働的に課題解決に取り組ませたりする指導の充実
- ・ 活動の過程を記録し蓄積する教材（キャリア・パスポート等）を活用した指導の充実
- ・ 幅広い啓発的体験活動の意図的・計画的実施、保護者への積極的な情報発信の推進
- ・ 児童生徒の個性や能力の把握、悩みを解消するための具体的指導やキャリアカウンセリングの充実
- ・ 進路に関する情報や資料を整備・蓄積し、効果的な活用

ウ 啓発的体験学習の充実

- ・ 社会参画意識の醸成や働くことの意義を意識させる体験活動の充実（小学校）
- ・ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成を図る体験活動の充実（中学校）
- ・ 家庭や地域社会の協力を得た職場見学、職場体験等の更なる充実

(7) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもなど特別な配慮を必要とする子どもが、障害等による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

ア 校内支援体制の整備・充実

- ・ 校内及び校種間における引き継ぎ体制の整備と組織的・継続的支援
- ・ 研修の充実による全教職員の専門性の向上

イ 共生社会の形成に向けた、指導の充実

- ・ 個々の障害等に応じた適切な教育課程の編成と、指導と評価の充実
- ・ 共生社会の形成に向けた、ねらいや手立てを明確にした組織的・計画的な交流及び共同学習の実施
- ・ 個別の指導計画・教育支援計画書等の活用による組織的・継続的な支援の充実

ウ 家庭や地域社会及び関係機関との緊密な連携

- ・ 個々の障害の特性、将来の進路、指導方法に関する保護者との緊密連携

- ・ 将来の自立や社会参加にむけた個別の教育支援計画に基づく、家庭や地域社会及び関係機関と連携した支援の充実

(8) 環境教育の推進

一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

ア 教科等間の関連を踏まえた指導の工夫

- ・ 全教職員による教育環境の趣旨の共通理解と校内指導体制の整備
- ・ 環境教育との関連を位置づけた、各教科等の年間指導計画の作成および指導の工夫

イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫

- ・ 小学校と中学校の連携に配慮し、効果的で継続的な指導

ウ 環境にかかわる体験活動の推進

- ・ 環境保全に主体的に取り組む態度を身に着ける体験活動の充実
- ・ 学んだことを実生活に生かすための、積極的な情報発信及び家庭や地域社会、関係機関との連携の充実

(9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

ア 我が国や郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進

- ・ 郷土の自然・歴史・伝統・産物等に関する全教育活動を通じた計画的な指導の充実
- ・ 我が国と諸外国の文化等を相互理解するための指導の工夫
- ・ 異なった文化や習慣を持つ人々との交流の工夫

イ 外国語を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成

- ・ A L Tなどの効果的な活用及び各学年の領域に応じた言語活動の工夫・充実
- ・ 小・中学校間の連携と円滑な接続及び学びの連続性を意識した指導の工夫

ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

- ・ 異なった文化や習慣、言語の人々との交流などを通して、世界への関心を深め、広い視野で物事を考えられるような児童生徒の育成

(10) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実

- ・ 組織的・計画的な情報教育の推進
- ・ 情報教育を推進するための校内研修等の計画・実施
- ・ 情報担当者を中心とした全体計画・年間指導計画の見直し、授業公開や各教科等の活用事例蓄積といったICT活用面での運用、教育情報セキュリティーポリシーの見直し

- イ 学習指導における I C Tや各種資料統計等の適切な活用の推進
 - ・ 発達の段階と各教科等の特質に応じた I C Tの活用能力の育成
 - ・ 各種統計資料等の適切な情報活用能力の育成
- ウ 家庭や地域社会と連携しながら児童生徒の安全を守る「情報モラル教育」の推進
 - ・ インターネット上のトラブルから身を守るための知識や判断力を身につける活動の工夫
 - ・ 各教科等や生徒指導と関連させた指導及び家庭や地域社会、関係機関と連携した指導の充実

(11) 総合的な学習の時間の充実

自校で育てようとする資質や能力及び態度を明確にした総合的な学習の時間の充実に努める。

- ア 目標及びその趣旨の共通理解
 - ・ 各学校の教育目標を踏まえたうえでの目標や内容の設定
- イ 六つの要素（目標、内容、学習活動、指導方法、学習の評価、指導体制）を示した全体計画及び年間計画の改善
 - ・ 小学校と中学校の接続を意識した計画的な取り組みの推進
- ウ 学習活動の充実
 - ・ 探求的な学習の課程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）における協働による学習活動やまとめたり表現したりする活動の充実
 - ・ 社会体験、体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論等の学習活動の工夫
- エ 評価方法の工夫
 - ・ 自校の教育目標や育てようとする資質や能力及び態度の育成を適切に評価するための評価基準の設定
 - ・ 学習の結果だけでなく、学習の過程の評価方法の工夫

(12) 研修の充実

教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。

- ア 組織的・計画的な研修の整備・充実
 - ・ 同僚性を発揮し、所属学年・専門教科の枠を超えて主体的・協働的に取り組む校内研修体制の整備・充実
 - ・ 校内外の研修から得た情報を共有する場の確保に努め、教育専門職として調和のとれた研修を推進
- イ 学校の教育課題解決のための実践的研究方法や評価方法等の明確化と検証の共有化
 - ・ 日常の授業実践に生かす、児童生徒の変容の評価・検証の工夫
- ウ 新学習指導要領に基づく実践的研究の充実
 - ・ 家庭や地域社会と連携し、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の研究・推進
 - ・ 新学習指導要領の趣旨と内容の十分な理解に基づいた自校の実態に応じた実践的研究の充実

—学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

社会教育行政の方針と重点

1 方針

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会を形成することができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

2 重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

ア 青少年の体験活動の充実

- ・ 身近な地域における体験活動での異年齢交流や世代間交流の促進
- ・ 関係団体との連携による、活動内容の充実

イ 地域が支えるキャリア教育の充実

- ・ 企業や関係機関・団体との連携による、キャリア形成のための学習機会の充実

ウ 地域全体で子どもを育む活動の充実

- ・ 学校支援ボランティア組織への支援
- ・ 学校・家庭・地域の協働による教育活動の充実

エ 家庭教育支援の充実

- ・ 学校及び関係機関との連携による、幼児期、学童期、思春期の子どもを持つ親に対する学習機会の充実
- ・ 子育てサークル等の家庭教育支援団体の育成と支援

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

ア 地域活動の実践者の育成

- ・ 家庭教育支援や各種ボランティア活動等についての、新たな実践者の育成
- ・ 地域課題に対応した学習機会の提供及び企画運営に参画できる体制づくり

イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

- ・ 各種ボランティア団体やサークルの地域活動の計画的支援並びに養成
- ・ 資質向上のための研修機会の提供

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

- ・ 各地域の指導者及びコーディネーター相互の交流機会の提供
- ・ 関係機関・団体等と連携協力するためのネットワークづくりの推進

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援

- ・ 多様な学習ニーズや地域課題をもとに、それらに応じた学習機会や学習の成

果を発表する場の充実

- ・ 関係機関との連携による学習内容の充実並びに主体的な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援
- ・ 各種発表会・イベント・地域行事への参加等、学習の成果を生かす機会や発表の場の充実
 - ・ 学習者・参加者が企画立案にかかわるための実施体制の改善及び社会参加活動への支援
- ウ 国際化へ対応できる人財の育成
- ・ 小中学生に加え幼児や大人を対象とした、ネイティブな英語に接する機会の提供

(4) 社会教育推進のための基盤整備

ア 社会教育推進体制の充実

- ・ 多様化する学習ニーズを反映させた社会教育計画の策定と、改善に役立つ事業評価の創意工夫
- ・ 関係機関・団体との連携協力体制の強化

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

- ・ 地域の特色と、公民館、図書館等の社会教育施設の特性を生かした取り組みの推進と活用の促進
- ・ イベントや講座等の企画の充実と周知方法の工夫による、施設活用の促進

ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

- ・ 社会教育主事や図書館司書、学芸員等の有資格者の計画的な養成
- ・ 社会教育関係職員の研修機会の充実と資質の向上

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

- ・ 社会教育関係団体指導者の各種研修への積極的な参加支援
- ・ 指導者養成研修の計画的な実施

※「人財」とは

青森県では、「人は青森県にとっての「財（たから）」である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表しています。この七戸町教育施策の基本方針でも「人財」という言葉で統一しています。

—学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

公民館の方針と重点

1 方針

公民館は、社会教育機関として町民の学習要求に応えるほか、地域社会の活性化を図るために、良好な人間関係を基盤とした住民相互の豊かな関係を醸成するなど、地域づくりの拠点となることから、多くの町民が公民館に関心を持ってもらうとともに、更なる公民館利用促進につながるよう努める。

2 重点

(1) 公民館等の充実及び活用の促進

- ア より多くの住民が利用しやすい公民館となるような環境整備
 - ・ 施設や備品の計画的な整備促進
 - ・ インターネットを活用した施設予約状況確認サービスの充実
- イ 自己啓発・向上に資する講座・研修会等の開催
 - ・ 親子対象事業及び各世代対象事業の充実
 - ・ 地域活動に参加できるきっかけ（地域デビュー）の提供
- ウ 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成
 - ・ 新たな自主グループの発足に向けての相談や支援の充実
 - ・ グループ活動に繋がる主催講座の実施

(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

- ア 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋
 - ・ 町内の人財活用
 - ・ 利用者相互の交流の促進
- イ 学習活動に必要な施設設備等の有効活用及び情報機器等による学習情報の提供
 - ・ 県及び上北教育事務所管内で開催されるイベント及び各種講座、学習会の周知
- ウ 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供
 - ・ 活動成果の積極的な披露

—学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

図書館の方針と重点

1 方針

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努める。

2 重点

(1) 図書資料の整備充実と利用の促進

ア 図書館資料の充実

- ・ 蔵書のバランスを考慮し、かつ利用者ニーズに対応した一般書・児童書の収集整備
- ・ 地域資料の積極的な収集整備

イ 図書館サービスの充実

- ・ 予約・リクエスト・相互貸借サービスの利用による、利用者と本を結びつけるための迅速・適切な対応
- ・ レファレンスサービス（図書館資料を用いての調べもの案内）の強化

(2) 読書活動の推進

ア 子どもの読書活動の推進

- ・ 幼児・児童が本に親しむ環境の整備
- ・ 日頃読書習慣のない児童に向けた、本に触れる機会の提供
- ・ 「ブックスタート事業」の推進
- ※ 乳児が絵本をとおして家族との触れ合いの時間を持ち、さまざまな子育て支援につなげるきっかけづくりを行う。

イ 生涯学習の推進及び支援

- ・ 生涯学習のきっかけとなる、さまざまな文学作品に触れる機会の提供
- ・ 読書団体への資料提供等協力や催事への後援

ウ ボランティア活動の育成と支援

- ・ 図書ボランティアの円滑な活動のための各種研修会への派遣や活動機会の提供

—伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成—

文化財保護と芸術文化振興の方針と重点

1 方針

町民一人一人が、郷土に対する愛着と誇りを持ち、潤いのある生活の実現を目指すとともに、文化財保護の推進と芸術文化の振興に努める。

2 重点

(1) 文化財の保存・活用

有形・無形文化財及び史跡天然記念物並びに埋蔵文化財の保存・活用に努める。

ア 世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」史跡二ツ森貝塚の保存・活用推進

イ 文化財の保存

・有形・無形文化財や埋蔵文化財、民俗文化財等の保存

ウ 文化財の活用

・二ツ森貝塚館の運営管理

・文化交流センターの運営管理

(2) 伝統芸能の保存・継承

伝統芸能の保存・継承に努める。

ア 後継者育成や活動及び記録保存への支援

(3) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。

ア 芸術文化に関する団体及びサークル等の育成

・自主的な活動についての町内外への情報の発信

・芸術文化団体及びサークル等の連携による発表会の機会の創設

イ 鷹山宇一記念美術館等との連携

・芸術文化団体及びサークル等への研修機会の提供

・子ども・青少年が芸術に直接触れることのできる機会の提供

—生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供—

社会体育の方針と重点

1 方針

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努める。

2 重点

(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1スポーツの普及・奨励に努める。

ア スポーツに親しむ環境づくり

- ・ スポーツへの興味・関心を高める各種教室・講習会等の開催やスポーツ活動の機会の提供・充実
- ・ 健康とスポーツとの関わりや気軽にできる軽スポーツ等の情報の提供

イ 地域スポーツ活動の普及・奨励

- ・ 町民相互の連携及び地域の活力の醸成を図るスポーツ交流の普及・奨励
- ・ 誰でもスポーツに親しめる総合型地域スポーツクラブ設立への取組

(2) 競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

ア 競技力を高める環境づくり

- ・ 町スポーツ協会やスポーツ少年団等の自主的な活動の奨励・支援
- ・ スポーツ科学を活用した選手及び指導者の育成と研修機会の提供

イ 各種スポーツ大会出場の奨励

- ・ 競技選手の強化支援体制の充実
- ・ 指導技術に長けた指導者の活用

(3) スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

ア 指導者の確保

- ・ 要請に応じて地域やスポーツ団体へ指導者を派遣できる体制整備・活用
- ・ スポーツ推進委員やスポーツ協会会員の研修会・講習会等への派遣

イ スポーツ振興の充実

- ・ スポーツ協会を中核として各種スポーツ団体や職域団体、地域の代表等の相互理解に基づく生涯スポーツへの取組
- ・ 各種団体からの指導者の相互派遣

ウ 社会体育施設等の有効活用・利用促進

- ・ スポーツ活動推進に関する情報の収集・発信
- ・ 利用者ニーズに即した施設改修・整備の促進
- ・ (仮称)七戸町総合アリーナの建設

Ⅲ 令和4年度教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）により、平成29年5月17日から教育長及び4人の委員をもって組織し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関すること等を管理、執行した。

1 教育委員の構成

令和5年3月現在

役 職 名	氏 名	任 期
教 育 長	附 田 道 大	令和2年5月17日～令和5年5月16日
教育長職務代理人	山 田 典 郎	令和2年5月17日～令和6年5月16日
委 員	附 田 由喜枝	令和3年5月17日～令和7年5月16日
委 員	菊 池 龍 達	令和元年5月17日～令和5年5月16日
委 員	盛 田 元 之	令和4年5月17日～令和8年5月16日

2 教育委員会の開催状況

七戸町教育委員会の会議は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催している。

また、所管する事項について調査及び研究を行い、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図っている。

(1) 教育委員会会議（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

開 催 回 数		付 議 案 件		
定 例 会	臨 時 会	報 告	議 案	協 議
12	1	33	20	3

3 教育委員の会議以外の活動状況

教育委員は、毎月1回開催する定例会議、必要に応じて臨時会議に出席しているほか、学校等の教育施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会や教育委員会主催の各種行事に参加し、委員としての幅広い識見を養い、当町の教育行政の向上に努めている。

(1) 主な活動

学校訪問（小学校3校、中学校2校）	教育奨励賞授与式
小・中学校入学式・卒業式等の学校行事	教育福祉援助基金授与式
上十三教育委員会連絡協議会研修会	二十歳のつどい

IV 令和4年度教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員からの主な意見

七戸町教育委員会の事務事業評価の取り組みは、平成21年度に実施した平成20年度事務事業分から開始し、15回目の事業評価となるが、事業内容等の改善や教育の充実が図られるよう評価を行ってきた。

令和4年度事務事業を評価し審議した結果について、以下のとおり意見を述べる。

- 町費負担臨時教員配置事業について、学校を取り巻く情勢が変化中、特別支援教育、生徒指導、ICT環境、児童生徒の不登校への対応など、学校の業務は多忙であることから、これからも人材確保に努め、継続していただきたい。
- 特別支援教育に関する事業について、発達や行動が気になる就学予定児、児童及び生徒が増加傾向にあり、その支援方法も多様化している。就学に係る教育相談を経て、通常学級への入級を選択した場合においても、児童生徒と保護者に対して継続的に関係機関と連携して対応していただきたい。
また、これまでの新型コロナウイルス感染症拡大のため、臨時休校等で学習定着の遅れや学習に配慮が必要な児童生徒が少なからずいることが懸念される。そのことにより、不登校やいじめの対象にならないよう十分配慮しながら取り組んでいただきたい。
- 公営塾運営事業について、当町には公営塾を兼ね備えた魅力的な高校があるということを町内外に発信し、高校と連携しながら、生徒の希望する進路に合わせた学習指導を充実させるなど、引き続き、事業効果を最大限に活かす努力を継続していただきたい。
- ICT支援員派遣事業について、これまでと同様に、教職員の資質向上や錯綜する業務の中で大きな支えになっていることから、継続して取り組んでいただきたい。
- 部活動の地域移行について、指導者やスタッフ、責任の所在など多くの課題がある中、生徒・教職員が共に納得できる体制を模索し、地域との連携、部活動の在り方、教職員の働き方改革の方向性を見出せるよう取り組んでいただきたい。
- 文化芸術鑑賞事業について、令和4年度から各園、各小・中学校を対象とした補助金の交付により実態に合った自由な取り組みができ、効果的な事業であると評価したい。子どもたちが、文化・芸術に興味を持つきっかけづくりであることから、補助金事業を継続していただきたい。
また、文化・芸術に親しむ機会として、鷹山宇一記念美術館を十分に活用した取り組みを継続していただきたい。

- 公民館講座等に関するICTの活用について、現在行っている各種講座の周知、参加申込み、受講など、町民に対してICTを活用した方法の構築を進めていただきたい。
- 文化、スポーツ、公民館事業全般について、新型コロナウイルス感染症対策を契機として、各事業の見直しやスリム化など、これまで事業内容を検討しながら対応してきたことを評価したい。今後も、整理統合を念頭に置きながら取り組んでいただきたい。
- 世界文化遺産の保存・活用の推進について、ボランティア団体との連携、イベントの開催等によりPR活動が着実に行われている。今後、訪れやすい環境づくりとして、町の主要施設からの移動方法について検討していただき、来訪者の増加に向けて工夫していただきたい。
また、町民への日頃からの意識高揚に向けて、広報誌や防災しちのへ広報など既存の仕組みを活用していただきたい。
- 文化交流センターについて、二ツ森貝塚館と関連づけながら事業展開していくことになると思うが、引き続き、将来的に価値あるものを後世に伝えていくため、長期的な視点で事業の展開方法及び施設の整備などについて十分検討していただき、方向性を見出すよう取り組んでいただきたい。

令和5年7月28日

七戸町教育評価審議会

委員 澤田良子
委員 中村美知代
委員 伊藤清治

V 令和4年度施策別主要事業一覧

施策分野	重点項目	事業細目番号	事業名	所管※	継続	充実	廃止	縮小	統合	完了	見直し	その他	
1 学校教育の方針と重点	(1) 授業の充実	1 (1) ①	町費負担臨時教員配置事業	学務	●	●							
			② 少人数学級編制等研究事業	学務	●								
			③ 英語教育コーディネーター配置事業	学務	●	●							
	(2) 道徳教育と特別活動の充実	1 (2) ①	七戸町教育奨励賞	学務	●	●							
			② 教育福祉援助基金給付事業	学務	●								
			③ 奨学資金貸付事業	学務	●								
			④ 特色ある学校づくり推進事業	学務	●								
	(3) 体育・健康教育の充実	1 (3) ①	学校検診事業	学務	●								
			② 七戸町学校保健会補助事業	学務	●								
			③ 七戸町児童生徒対外遠征費補助事業	学務	●								
			④ 要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業	学務	●	●							
			⑤ 学校給食費給付金交付事業	学務	●								
	(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	1 (4) ①	特別支援教育支援員配置事業	学務	●	●							
			② 学校生活相談員配置事業	学務	●	●							
		③ 教育支援委員会	学務	●	●								
		④ スクールソーシャルワーカー配置事業	学務	●	●								
(5) キャリア教育の充実	1 (5) ①	七戸町公営塾運営事業	学務	●	●								
(6) 国際化・情報化に対応する教育の推進	1 (6) ①	外国語指導助手(A L T)派遣事業	学務	●									
		② I C T支援員派遣事業	学務	●									
(7) 研修の充実	1 (7) ①	七戸町教育振興会補助事業	学務	●									
		② 教職員ふるさと研修事業	学務	●									
2 の社会教育方針と重点	(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人材の育成	2 (1) ①	家庭教育支援総合推進事業	生涯	●								
			② 放課後子ども教室推進事業	生涯	●	●							
			③ 国際交流推進事業	生涯	●	●							
		④ 青少年育成七戸町民会議	生涯	●									
(2) 次代を担う青少年の育成	2 (2) ①	二十歳のつどい開催事業	中公	●									
(3) 社会教育推進のための基盤整備	2 (3) ①	七戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	生涯	●									
3 文化財の方針と重点	(1) 芸術文化活動の充実	3 (1) ①	町立美術館の指定管理委託事業	生涯	●								
			② 文化芸術鑑賞事業	生涯	●								
			③ 七戸町民文化祭開催事業	生涯	●								
	(2) 文化財の保護・活用の充実	3 (2) ①	世界文化遺産の保存・活用の推進	世界	●	●							
			② 史跡ニツ森貝塚(史跡公園)の保護・活用	世界	●	●							
			③ 史跡七戸城跡の保護・活用	世界	●	●							
			④ 史跡土地買い上げ事業	世界	●								
			⑤ ニツ森貝塚館の運営	世界	●	●							
			⑥ 文化交流センターの管理	世界	●								●
			⑦ 国指定有形民俗文化財の保管及び公開	生涯	●								
(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承	3 (3) ①	七戸町郷土芸能保存会支援事業	世界	●									
4 社会体育の方針と重点	(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現	4 (1) ①	七戸町ジュニアスキースクール	生涯	●								
			② 町民スポーツ交流会	生涯	●								●
			③ スポーツ協会加盟団体によるスポーツ大会	生涯	●								
	(2) 競技者の育成を図る環境づくり	4 (2) ①	青森県民駅伝競走大会	生涯	●								
			② スポーツ協会補助事業	生涯	●								
			③ 七戸町スポーツ少年団活動費補助事業	生涯	●								
			④ スポーツ協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)	生涯	●								
			⑤ 七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)	生涯	●								●
			⑥ 健康増進生涯スポーツ普及事業	生涯	●								
	(3) スポーツ振興の体制整備	4 (3) ①	スポーツ推進委員研修	生涯	●								
			② スポーツ顕賞表彰	生涯	●								
		③ 各種大会開催や合宿等の誘致	生涯	●									
5 公民館の方針と重点	(1) 公民館等の充実及び活用の促進	5 (1) ①	公民館運営審議員設置事業	中公	●								
			② 中央公民館分館事業	中公	●	●							
			③ 中央公民館講座開設事業	中公	●								
			④ 寿大学開設事業	中公	●	●							
			⑤ 柏葉大学開設事業	南公	●	●							
			⑥ 七戸南公民館講座開設事業	南公	●	●							
			⑦ 七戸南公民館分館事業	南公	●	●							
(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援	5 (2) ①	文化協会の育成支援事業	中公	●									
		② 七戸町連合婦人会育成事業	中公	●									
		③ 中央公民館だより発行事業	中公				●						
6 図書館の方針と重点	(1) 図書資料の整備充実と利用の促進	6 (1) ①	中央公民館図書室事業	中公	●								
			② 図書館サービス事業	中図	●								
			③ 図書館協議会の運営	中図	●								
	(2) 読書活動の推進	6 (2) ①	子どもの読書活動推進事業(中央公民館)	中公	●								
			② ボランティア活動の育成支援事業	中公	●								
			③ 子どもの読書活動推進事業(中央図書館)	中図	●								
	④ ボランティア活動の育成支援事業(中央図書館)	中図	●										
	⑤ 生涯学習の推進・支援事業	中図	●										

※学務：学務課 生涯：生涯学習課 世界：世界遺産対策室 中公：中央公民館 南公：南公民館 中図：中央図書館

事業評価シート

事業細目番号	1(1)①	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	町費負担臨時教員配置事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			22,904	24,082
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			22,904	24,082

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	各校の教育課題を解決するため、町独自の教員(臨時講師)を採用し、教育環境の充実による「確かな学力の定着」・「生徒指導の充実」等を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町教育委員会が求める人材について ・豊かな教養、人間性、社会性を兼ね備えた教師 ・教育に対する情熱と教育者として強い使命感をもって取り組む教師 ・子ども理解に優れ、教育の専門家として知識・技能を備えた教師 採用方法について ・広報、町ウェブページ等で募集し、選考試験を実施

事業効果	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目				
配置校・配置人数			七戸小学校 2名	七戸小学校 1名	天間林小学校 1名
			七戸中学校 1名	天間林小学校 1名	七戸中学校 1名
			天間林中学校 1名	七戸中学校 1名	天間林中学校 1名
				天間林中学校 1名	

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	各校の教育課題を解決するため、平成26年度から実施している。配置校及び保護者からの需要と評価は高い。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	令和4年度は3名配置(継続3名:天小1名、七中1名、天中1名) 県費負担教員に採用されるなど、欠員が生じた場合の人材確保が課題となっており、募集方法について検討が必要である。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(1)③	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	英語教育コーディネーター配置事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			241	230
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			241	230

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小学校新学習指導要領(平成29年文部科学省告示第63号)により、2020年度から小学校において英語が教科となったため、英語指導の専門性を有する者を設置し、小学校教員の指導力を養成するとともに、児童の学習援助及び学校の教育力の向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	学校長の指揮のもと、次の業務を行う。 ・チームティーチングによる授業支援及び学習指導に関わる教員の指導 ・学年の年間指導計画、学習到達目標の整備に関わる指導 ・教員の英語力向上を図るための校内研修の計画や実施に関わる指導 ・学習到達評価の枠組み及び評価実施方法の設定に関わる指導
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
配置校・配置人数		天間林小学校 1名	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名 (兼務 城南小学校) (兼務 天間林小学校)

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%) 低い	B
評価の説明	平成30年度から継続しており、令和4年度は七戸小学校を拠点校に1名配置し、町内全小学校(3校)で活動した。チームティーチング(TT)による指導や指導計画立案の援助などを行い、各小学校からの評価が高く英語指導の充実が図られている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	七戸小学校を拠点校として町内全小学校(3校)での活動を次年度以降も継続していく。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(2)①	担当課	学務課	担当者	佐藤 亨哉
事業名	七戸町教育奨励賞				

事業費	年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		78	129	127
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源		78	129	127	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	児童生徒が教育文化活動・スポーツ活動において優秀な成績を収めた団体及び個人を表彰することにより、能力開発や健全育成を図る。	表彰基準に該当する者で学校長及び各種スポーツ少年団本部長から推薦があった者の中から教育委員会が審査し、各賞を決定する。 表彰式は年1回実施している。

事業効果	年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目				
	特別優秀賞		該当なし	該当者なし	該当者なし
	最優秀賞		個人の部4名	個人の部11名	個人の部1名
	優秀賞		団体の部2団体、個人の部25名	個人の部6名	団体の部3団体、個人の部17名
優良賞		団体の部2団体、個人の部18名	団体の部1団体、個人の部21名	団体の部2団体、個人の部21名	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			B
評価の説明	七戸町教育奨励賞表彰要綱の表彰基準を満たし、推薦された児童生徒について公平に審査を行った。教育文化及びスポーツ活動において、児童生徒の能力開発、健全育成の充実につながっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	教育文化活動関係の表彰基準の該当者が多くなっている。また、スポーツ活動では、少子化による出場人数の減少により、上位大会の出場権が得られやすくなっているため、表彰基準を検討し、教育文化及びスポーツ活動の能力開発及び健全育成を図っていく。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)②	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	教育福祉援助基金給付事業				

事業費	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決 算 額(千円)	1,000	950	1,100	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		そ の 他	1,000	950	1,100
		町 債			
一 般 財 源					

事業概要	□ 目的	勉学に意欲的に取り組み、他の模範となる生徒であり、高等学校・高等専門学校へ進学しても七戸町民として自覚と誇りをもって学業に励んでもらうため、入学祝金として奨学金を授与する。	□ 内容	出願資格は、七戸町民で、七戸町内の中学校3学年に在学し、翌年度に高等学校・高等専門学校へ進学する者のうち、次の要件に該当する者とする。 ・学業優秀な者(成績評定が概ね3.5以上) ・経済的な理由で就学が困難と認められる者
------	------	--	------	--

事業効果	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	給付金額	1,000,000円	950,000円	1,100,000円
	給付者数	20名	19名	22名
	給付金額(1人当たり)	50,000円	50,000円	50,000円

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	中学校生徒に奨学金を直接交付することにより、町として期待の意を伝えることができ、修学の意義について考えてもらう良い機会となっている。そのことが修学意欲の向上につながり、その後の郷土愛の発揚にも寄与している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	事業の趣旨に即した成果を得られている。 生徒数も減少しているため、令和2年度から町内中学校全卒業予定者数の20%以内を対象人数とし、本事業を可能な限り継続していく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(2)③	担当課	学務課	担当者	町屋 壮太郎
事業名	奨学資金貸付事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		18,080	23,880
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	18,080	23,880	20,940

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町に住所を有する者の子弟で、学業の優れた学生及び生徒であって経済的理由により就学が困難なものに対して資金を貸し付け、人材育成を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	貸付を受けることができる者及びその額 ・大学に在学する者：月4万円以内 ・大学及び専門学校に進学する者：入学一時金として50万円以内 返還方法(卒業から1年間の据置後、月賦、年賦など) ・大学：15年以内 ・短大：12年以内(2年制：10年) ・専門学校：5年以内 ※その他連帯保証人要件あり。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
貸付額		18,080,000円	23,880,000円	20,940,000円
貸付者(新規・継続)人数		32名	41名	36名
新規者(再掲)		9人	16人	9人
滞納総額年度末現在		15,439,600円	14,547,400円	14,496,100円

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	町民ニーズは高く、保護者の経済的支援となっている。大学等進学率など教育を受ける機会の増加に効果を上げており、成果が上がっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	貸付申請や返還の事務処理を効率よく、かつ厳正に行うことにより、安定したサイクルで運用し、長期にわたり継続できるよう努める。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)④	担当課	学務課	担当者	佐藤 亨哉
事業名	特色ある学校づくり推進事業				

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
決算額(千円)	1,227	1,213	1,209
財源内訳			
国・県支出金			
その他			
町債			
一般財源	1,227	1,213	1,209

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的 児童生徒の「生きる力」を育むため、教育活動・学校行事(文化芸術・体育事業)などの学校教育課程に位置づけられる教育活動を推進する。	<input type="checkbox"/> 内容 各小中学校が、通常の授業では得ることのできない教育活動を企画し、事業を実施している。特に力を入れたい教科の教材費や専門的な知識・技術を有する外部講師に対する謝礼金等を支援し、各学校における柔軟な事業を推進する。
------	---	--

事業効果	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象小学校数		3校	3校	3校
小学校補助金額		747,000円	731,000円	730,000円
対象中学校数		2校	2校	2校
中学校補助金額		480,000円	482,000円	479,000円

評 価	評 価 項 目	評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	各小中学校の特色を生かした行事等を自由に計画できることから、各校からのニーズは高い。学校の規模(学級数・児童生徒数)により補助金額を決定している。各校において教育目標を達成するために柔軟な事業を実施している。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	生きる力を育むための事業であり、各校独自の事業を実施できる事業であり継続の要望は大きい。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)①	担当課	学務課	担当者	田原 千鈴
事業名	学校検診事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	1,333	1,271	1,207	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		1,333	1,271	1,207	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	学校保健安全法に基づき、健康な学校生活を送れるように検診を実施し、疾病の予防や健康づくりの意識を高める。	検査項目について ・目の疾病および異常の有無 ・耳鼻咽頭疾患の異常の有無 ・心臓の疾病及び異常の有無(小学1・4年生、中学1年生) ・尿検査 ・貧血検査

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	眼科検診受診者数	447人	428人	389人
	耳鼻科検診受診者数	908人	873人	843人
	尿検査受診者数	954人	927人	913人
心電図検査受診者数	324人	289人	262人	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	学校保健安全法に基づいた検査を行うことで児童生徒の健康状態を把握し、異常が見つかった場合は精密検査を勧めるなど、早期発見により早期治療につなげることができた。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	学校保健安全法で規定されているものであるため、今後も継続して実施する。
----------	---	-------------------------------------

事業評価シート

事業細目番号	1(3)②	担当課	学務課	担当者	田原 千鈴
事業名	七戸町学校保健会補助事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	100	85	56	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		100	85	56	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	七戸町内のこども園、保育園、小中学校、七戸高校及び七戸養護学校の児童生徒の健康増進を図る。また、養護教諭、保健主事の資質向上を図る。	主な活動内容について ・学校保健衛生の施策に対する協力 ・保健衛生思想の普及啓発 ・学校保健に関する調査研究・事業計画及び実践 ・学校関係者の指導及び研修 ・学校保健施設の助成及び学校保健資材の斡旋 ・家庭における保健思想の啓発 ・学校給食の実施・促進及び管理指導

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	全国学校保健主事・学校保健研究大会研修	中止	中止	岩手県開催 参加なし
	七戸町学校保健研究大会	中止	中止	中止
	保健主事研修会(8月)	中止	中止	中止
〃 (1月)	中止	中止	中止	

事業評価	評価項目			評価
	①	必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②	妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③	有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④	公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤	効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥	優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、多数の研修が中止となった。養護教諭研修会など、可能な活動を実施した。学校での健康指導に加え、研修等を通じ、家庭での健康への意識啓発につなげられるよう取り組む必要がある。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	健康教育については横断的に取り組む必要があることから、保護者への情報提供の場としても、今後も継続していく必要がある。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(3)③	担当課	学務課	担当者	佐藤 亨哉
事業名	七戸町児童生徒対外遠征費補助事業				

事業費	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決 算 額(千円)	332	1,626	1,790	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
一 般 財 源	332	1,626	1,790		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	<p>小・中学校における部活動において、遠征費の一部を補助することで部活動の推進及び競技力の向上を図るとともに、保護者等の経済的負担を軽減する。</p> <p>県大会以上の大会へ参加した、七戸中学校、天間林中学校に対し、参加料、プログラム代、食糧費、交通費、宿泊費等を補助した。(延べ28大会に出場)</p>	

事業効果	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	小学校対象件数	0件	0件	0件
	小学校補助金額	0円	0円	0円
	中学校対象件数	12件	14件	28件
中学校補助金額	331,585円	1,625,585円	1,789,545円	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)			A
	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			
	②妥当性(町が行うべきですか)			A
	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			A
	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)			A	
A 公平に配分されている B 公平に配分されていない				
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)			A	
A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)			A	
A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い				
評価の説明	<p>本事業は、県大会以上の遠征費の一部を補助することで、児童生徒の体育活動及び文化活動の活性化を担っている。特に東北大会、全国大会など県外遠征は、交通費及び宿泊費等の保護者並びに指導者負担が大きくなることから、上位大会出場に対する経済的負担を軽減することで、児童生徒の積極的な教育活動に有効性が認められる。</p>			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	<p>基準に基づき、公正かつ公平性を保持した運用を行い、事業を継続する。</p>
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)④	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		4,027	4,083
財源内訳	国・県支出金	0	0	54
	その他			
	町債			
	一般財源	4,027	4,083	5,521

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町就学援助費支給要綱に基づき、児童生徒の保護者から申請があった場合は、世帯の経済状況を審査し認定する。援助対象費目は、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費など。なお、要保護児童生徒に関しては、修学旅行費を支給する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
援助費支給額実績		4,026,615円	4,082,448円	5,574,783円
準要保護支給対象者		101人	105人	109人
要保護支給対象者		0人	0人	2人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
評価の説明	経済的困窮世帯が多く、就学援助の必要性は極めて高く、児童生徒の就学支援の効果は高い。給食援助費については、町単独の学校給食費補助金から支給となることにより、区域外就学児童生徒の保護者(町立小中学校に就学する児童生徒の保護者で町外に住所を有する者)のみに支給されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	経済的困窮世帯にとって当該事業の必要性は高く、児童生徒の教育に支障をきたすことの無いよう今後も事業を継続していく。また、手続き効率化の検討も続け、適正に遂行する。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)⑤	担当課	学務課	担当者	佐藤 亨哉
事業名	学校給食費給付金交付事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		42,436	48,487
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	42,436	48,487	47,604

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	小中学校の学校給食費用を保護者に支給し、経済的負担を軽減し、少子化対策及び子育て支援の充実を図る。	給食費給付対象保護者 ・町内に住所を有すること。 ・町内外の小中学校に在籍する児童生徒がいること。 ※生活保護受給者、町外に住所を有する区域外就学者の保護者は対象外

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
小学校対象者数		615人(町内3校、町外1校)	575人(町内3校、町外2校)	567人(町内3校、町外1校)
中学生対象者数		334人(町内2校、町外6校)	334人(町内2校、町外5校)	347人(町内2校、町外6校)
特別支援学校・学級対象者数		1人(町内1校、町外0校)	0人(町内0校、町外0校)	3人(町内1校、町外0校)

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	保護者の経済的負担が軽減されるため、事業の必要性は高い。町外学校在籍且つ他の援助制度を利用する者には、支給額を調整し公平に支援を行っている。少子化対策としての有効性は判断しがたいが、経済的負担に対する有効性は認められ、子育て支援につながっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子育て支援につながるため継続して取り組む必要がある。対象者の状況によって、他課や他市町村からの情報提供が必要なため、手続きの効率化や公平性について検討していく。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)①	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	特別支援教育支援員配置事業				

事業費	財源内訳	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		決算額(千円)	22,483	24,791	25,699
	国・県支出金				
	その他				
	町 債				
	一般財源	22,483	24,791	25,699	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	小中学校の通常学級及び特別支援学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の学習指導の補助、生活指導の補助及び介助等を行うことを目的に、各小中学校に特別支援教育支援員を配置する。	学校長の指揮監督のもと、学級担任と連携し、次の支援を行う。 ・基本的生活習慣確立のための学校生活上の介助 ・学習補助 ・学習活動、教室間移動等における介助 ・校外行事や運動会等、各行事における介助

事業効果	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目	配置校・支援員数	小学校 3校 ・ 11名 中学校 2校 ・ 4名	小学校 3校 ・ 11名 中学校 2校 ・ 4名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他				A
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない				A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない				A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い				A
評価の説明	特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、個々の特性に応じた適切な教育を行ううえで、特別支援教育支援員を配置することは、必要性、有効性ともに高く、重要な事業となっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後さらに必要性が増していくと考えられる。適切な支援をしていくためには、専門的な知識を身に付け、具体的な支援技術を習得していく必要があり、各種研修会を利用して、支援員の資質向上に努めていかなければならない。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)②	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	学校生活相談員配置事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	4,204	4,493	5,203	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		4,204	4,493	5,203	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	児童生徒の悩みや不安などを解消し、安心で充実した学校生活を送られる環境づくりを進める。 また、教職員と連携し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見、早期対応を行うことを目的とする。	学校長の指揮監督のもと、児童生徒の悩みや不安解消のため個別にカウンセリングを実施するなど、いじめや不登校児童生徒の指導を行うため、次の支援を行う。 ・児童生徒や保護者の悩みに対する相談対応 ・児童生徒の学校生活の適応援助 ・地域と学校の連携支援 ・その他学校における教育相談活動の支援

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	配置校・相談員数	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名
		天間西小学校 1名	天間林小学校 1名	天間林小学校 1名
		七戸中学校 1名	七戸中学校 1名	七戸中学校 1名
	天間林中学校 1名	天間林中学校 1名	天間林中学校 1名	

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	児童生徒の不登校やいじめなどの問題行動が多様化し、学校や保護者だけでは、解消することが困難となっている現状にある。このことから、児童生徒の学校生活を安定させるために、気軽に、そして素直に話すことができる第三者として学校生活相談員は、重要な役割を担っている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	児童生徒にとっては気軽に相談できることがストレスの軽減につながり、また、児童生徒の小さな変化にも気づくことができるメリットがある。 今後も継続していくことが必要であり、各学校の状況に応じて配置をしていかなければならない。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)③	担当課	学務課	担当者	田原 千鈴
事業名	教育支援委員会				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	保護者の希望により障がいのある、又は、発達や行動の気になる児童生徒にとって、適切な教育の場を決定できるよう、専門知識のある者によって構成された教育支援委員会において一定の判定をする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町と東北町とで中部上北教育支援委員会を共同設置し、次の事業を行っている。 ・障がいのある、又は、発達や行動が気になる就学予定児、児童及び生徒の適切な教育措置に係る総合判定 ・就学に係る教育相談
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	対象児童生徒数	21人	39人	31人
	入級・入校判定者数	14人	32人	26人
	実入級・入校者数	12人	31人	23人

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	関係各機関と随時情報交換を行うことで、学校生活に関して困り感を抱えている児童生徒への適切な支援対策を検討することができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	特別支援教育に対する保護者への不安や抵抗感を緩和するために、年長児に限らず、早期から情報提供をしていく。関係機関との情報交換を積極的に行い、保護者への適切な情報提供と対応を行っていく必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	1(4)④	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	スクールソーシャルワーカー配置事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		2,804	2,962	3,030
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		2,804	2,962	3,030	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	問題を抱えた児童生徒に対し、教育や社会福祉についての専門的な知識や技術を用い、関係機関とのネットワークを活用するなど、多様な支援方法で問題解決を図ることを目的とする。	問題を抱える児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育長の指揮監督のもと次の支援をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とのネットワークの構築、連携及び調整 ・問題を抱える児童生徒及びその家庭への支援 ・学校内におけるチーム体制の構築及び支援 ・問題に関する保護者、教職員等に対する支援や相談、情報提供

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目	配置場所・人数	教育委員会内(子ども支援ルーム)1名	教育委員会内(子ども支援ルーム)1名

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	児童生徒を取り巻く環境は複雑、多様化しており、問題を抱える児童生徒については深刻化している傾向にある。 そのため、学校・家庭・関係機関をつなぎ、状況改善に取り組むスクールソーシャルワーカーは、重要な役割を果たしている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	学校にとって、問題を抱える児童生徒の家庭や関係機関をつなぐ役割のスクールソーシャルワーカー設置意義は大きく、成果を残している。 本事業は平成28年度からの事業であり、今後も継続していく必要がある。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(5)①	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	七戸町公営塾運営事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			0	30,378
財源内訳	国・県支出金			14,913	17,314
	その他			5,000	9,500
	町債			8,400	6,300
	一般財源			2,065	1,514

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	<p>町の活性化や人口減少・少子化対策として、持続可能な地域づくりを担う人材育成を推進するため、七戸高校生徒を対象とした公設民営塾を開校し、基礎的な学力向上を図りながら、キャリア教育など多様な学びの場を創出する。また、それらの取り組みにより七戸高校の魅力化を図り、高校入学者を増やし、現在の学校規模の維持・存続を目指していく。</p> <p>地方創生推進交付金を活用し、令和3年度から令和7年度までの5年間で事業期間として、七戸高校の敷地内にある生徒会館2階に、公設民営塾【七戸公営柏葉塾】を開校した。事業運営は民間業者へ委託し、講師の派遣や自学自習の指導、施設管理を行う。希望する進路に合わせた学習指導、また、キャリア教育など多様な学びを通じて人材育成を行う地域活動を実施している。令和4年度は地域活動として「おしごと講話」を実施し、町内企業と塾生をつなぎ、七戸町をより深く知ってもらう取り組みを行った。</p>	

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
塾利用生徒数		0人	59人	119人
(地元中学生数)			(15人)	(45人)
入学者数		107人	103人	107人
塾生進路達成率			100%(2人/2人)	100%(29人/29人)
(進路先等)		0	(国公立大0人・私立大1人・その他1人)	(国公立大5名・私立大13名・その他11名)

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	塾の利用生徒数をR3年度80名、R4年度100名、R5年度110名、R6年度115名、R7年度120名と計画し、R4年度は119名で昨年度から60名増加した。教職員と塾講師との連携が充実しており、塾利用者は計画を上回っている。R5年3月に実施した満足度アンケート調査結果において、回答した65世帯のうち、46世帯(70.8%)から通塾させてよかったと評価をいただいている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	青森県内で初の公設民営塾であり、新たな事業として町内外の中学生への広報活動に重点をおき、七戸高校入学者数及び塾利用者数の増加につながるよう取り組んでいく。また、進路目標達成のための学習活動や人材育成のための地域活動に継続して取り組む。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(6)①	担当課	学務課	担当者	田原 千鈴
事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	6,444	6,794	9,148	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		6,444	6,794	9,148	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	外国の文化に対する理解を深め、国際理解教育を推進するとともに外国語教育の充実を図る。	JETプログラム(語学指導を行う外国青年招致事業)を活用し、2人のALTを町内の小中学校に派遣し、外国語教育の充実を図っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校における外国語授業及び外国語活動の補助 ・特別活動及び課外活動への協力 ・外国語担当教員の研修補助 ・外国語教材の作成の補助やスピーチコンテスト等への協力 ・地域における国際交流活動への協力

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	ALT派遣校			
	七戸地区担当1名	小学校 2校、中学校 1校	小学校 2校、中学校 1校	小学校 2校、中学校 1校
天間林地区担当1名	小学校 1校、中学校 1校	小学校 1校、中学校 1校	小学校 1校、中学校 1校	

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) 優先性が高い B (50%) C (25%) 低い	A
評価の説明	令和4年7月に継続4年目となるALT1名が帰国し、8月に新ALTを迎えた。2名体制で七戸町内小中学校に派遣し、各校の教員と連携して、生きた英語に触れる機会を増やした。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	引き続き2名体制で町内各小中学校へ派遣し、外国語教育の充実を図っていく。
----------	--	--------------------------------------

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(6)②	担当課	学務課	担当者	濱村 壮琉
事業名	ICT支援員派遣事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	0	6,314	6,314	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		0	6,314	6,314	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小中学校に整備された通信ネットワーク及び児童生徒1人1台タブレット端末を効率的に活用した授業の推進を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	小中学校5校に週1回支援員を派遣し、端末の準備や操作補助等の授業支援や教職員に対する業務支援、また学校行事でのICT機器の使用補助など、ICT業務全般について支援を行っている。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	ICT支援員派遣校 (派遣者1名,各校週1回)	0	小学校 3校、中学校 2校	小学校 3校、中学校 2校

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	児童生徒1人1台タブレット端末を活用した授業等の実施にあたって、端末操作や環境設定など多くの課題の解消に効果を発揮している。児童生徒だけでなく、教職員に対する支援など、学校全体としてもICT関連業務がスムーズに進めることができおり、支援員の派遣は重要な役割を担っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	令和3年度からの事業であり、ICT関連業務の支援は今後も必要性が高いと思われる。各学校からの要望も強いことから、引き続き支援員を派遣し、タブレット端末を活用した授業の充実を図っていく。また、費用対効果も高めるよう工夫する。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(7)①	担当課	学務課	担当者	町屋 壮太郎
事業名	七戸町教育振興会補助事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)	595	605	663
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	595	605	663

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	園児・児童生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に係る事業を行い、教育の振興を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	園児、児童生徒の教育、文化及び体育の振興事業について ・各種大会への参加や各種作品展への応募推進 ・こども園、保育園、小中学校連携活動事業等 教職員の資質向上事業について ・ふるさと研修、研究活動等
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
体育・学芸委員会	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	
職員研修	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等	
先進校等研修(幼・保育園)実施	5校(6園)	5校(6園)	2校(6園)	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	七戸町の教育環境充実のため、教職員の資質向上や、こども園、保育園及び小中学校間で交流を行うことにより、進学のスームズな移行に貢献している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校とこども園・保育園との交流活動を実施できない学校もあった。感染症対策を講じて実施方法などを改めて検討する。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(7)②	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	教職員ふるさと研修事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	10	15	15	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		10	15	15	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	市町村教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に七戸町の教育課題や文化、歴史等についての研修を行い、理解を深める。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町文化ガイドの会及び二ツ森貝塚ボランティアガイドの会を講師に迎え、町内の歴史的な遺産及び史跡など歴史、文化について研修した。 今年度は、史跡二ツ森貝塚、史跡七戸城跡、ひげ塚公園、見町観音堂、銀南木、二ツ森貝塚館を見学し、説明を受けた。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	参加者： 教職員	8人	12人	10人
	教育委員会	1人	1人	4人
	合計	9人	13人	14人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	初任者及び赴任してきた教職員を対象にした研修で、町内の文化財等を見学し、教育課題の研究や学習指導に役立てることに成果を上げた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	教材となる多数の文化財を活用し、研修効果を高めるよう計画していく。 夏休み期間の事業であるため、他機関の研修日程と調整し、教職員が参加しやすいよう実施していく。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	2(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	米内山 淳樹
事業名	家庭教育支援総合推進事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	333	293	459	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	333	293	459	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	家庭における子育てやしつけなどを見つめ直すきっかけを作るため、町内のこども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校において親などが参加する様々な機会を活用して、家庭教育に関する学習機会の提供を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	町内のこども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校での子育て講座、家庭教育講座を実施した。(計24回) ・思春期講座 9回 ・虫歯予防講座 2回 ・体操教室 1回 ・工作等教室 12回
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	実施講座数	23回	22回	24回
	参加者数	652人	526人	676人

事業評価	評 価 項 目			
	①必要性(町民が必要としていますか)			A
	A 町民ニーズは高い		B 町民ニーズは低い(ない)	
	②妥当性(町が行うべきですか)			A
	A 町が行うべきである		B 町が行う必要性は薄れている(ない)	
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			A
A 成果は上がっている		B 成果は上がっていない		
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)			A	
A 公平に配分されている		B 公平に配分されていない		
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)			A	
A コスト削減の余地はない		B コスト削減の余地はある		
(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)			A	
A (75%)		B (50%)	C (25%)	
優先性が高い			低い	
評価の説明	家庭教育力の低下が指摘されている中、保護者が多数集まる参観日などの機会を利用し実施する子育て、家庭教育、思春期に関する講座の実施は非常に重要である。 また、対象の全施設で実施しており、講師も町内在住の指導者を活用するなど、学校、家庭、地域の連携が図られてきている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	対象の施設において親子で家庭教育講座などに参加する機会は重要であり、それぞれの施設で保護者のニーズに応じた講座を実施しており、今後も事業継続要望があるため予算の確保に努める。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	2(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	米内山 淳樹
事業名	放課後子ども教室推進事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		894	508
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	894	508	339

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域の人材を活用した学習、スポーツ、文化活動を実施し、放課後に子どもたちが安心して活動できる場の確保を図るとともに子どもたちの健全な育成を目指す。	<input type="checkbox"/> 内容	・放課後対策事業の総合的な調整役を担う地域コーディネーターを配置 ・活動の補助を担う教育活動サポーターを配置 ・次の4教室を実施(計15回) ポッチャ体験教室 1回 習字教室 10回 カレンダー作り教室 2回 マーブリング教室 2回
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延べ開催日数		47日	26日	15日
延べ児童参加者数		892人	490人	219人
地域コーディネーターの配置者数		1人	1人	2人
教育活動サポーターの配置者数		4人	4人	4人

事業評価	評価項目			
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき	B 町が行う必要性は薄れている(ない) (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
優先性が高い			低い	
評価の説明	新型コロナウイルス感染症の影響により7月から開始となったため、開催日数や参加者数は前年度より大幅に減少しているが、町民ニーズは高く各種体験により放課後の活動の充実につながっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	現在行っている体験活動をより充実させることや、新たなプログラムを導入することなどで、児童や保護者のニーズを維持できるかどうかは事業継続のポイントになる。 本事業は地域コーディネーターと教育活動サポーターの担う役割が大きいため、引き続き人材の発掘及び各種研修の充実に努める。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	2(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 敦
事業名	国際交流推進事業				

事業費	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		59	319
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町 債			
	一般財源	59	319	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	外国人と交流し、異文化に触れる機会を提供することにより、異文化への関心や理解を高め、外国人とのコミュニケーション能力を養い、国際社会に対応できる人材の育成を図る。
	<input type="checkbox"/> 内容	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の実施なし。

事業効果	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	イングリッシュデイ参加者数	14人	16人	0人
	イングリッシュキャンプ参加者数	0人	4人	0人

事業評価	評 価 項 目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	B
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業は実施しなかった。 国際交流推進事業は、国際化が進む現代社会に対応できる人材を育成するうえで必要不可欠であるため、実施可能となった場合に備えて実効性の高い事業が実施できるよう準備していきたい。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	外国人とのコミュニケーションには、世界共通語とされる英語の学習は必須であるが、事業内容が英語学習にのみ着目し、異文化へ触れるまでに至っていないため、異文化への関心及び理解の向上も踏まえ、効果的に事業を企画し、展開する必要がある。 ※異文化交流事業及び国際交流推進事業を統合
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	2(1)④	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 敦
事業名	青少年育成七戸町民会議				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		31	27
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	31	27	93

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域における青少年の育成に携わる関係者及び関係団体が連携し、青少年の健全育成に係る活動を推進することにより、青少年の健全な育成を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	・七戸あいさつ運動推進週間 ・啓発物品の配布
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---------------------------

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
あいさつ運動 参加者数		314人	306人	239人
青少年健全育成者研修会 参加者数		0人	0人	0人

事業評価	評価項目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	B
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
優先性が高い	低い		
評価の説明	8月23日～30日の6日間にわたり、町内の小学校、中学校、高等学校の校門前等で七戸あいさつ運動推進週間として実施し、延べ239名の関係者が参加した。事業の成果として、地域全体で子どもを見守り育てる意識及び気運の醸成並びに子どもの安全・安心を守る地域力を向上することができた。 また、啓発物品の配布により、町内の児童及び生徒に対して青少年健全育成に関する知識を啓発し、善悪の判断等の規範意識や倫理観等の育成に寄与することができた。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	青少年を取り巻く社会環境は、少子高齢化や核家族化の進行など様々な社会情勢によって急速に変化しており、昨今においては新型コロナウイルス感染症の感染拡大により対面コミュニケーション機会の減少、インターネット利用の長時間化など、青少年の生活に大きな影響を与えている。以上を踏まえ、今後は社会情勢の変化に対応し、実情に即した実効性の高い施策により、青少年の健全育成を図る必要がある。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	2(2)①	担当課	中央公民館	担当者	町屋 さおり
事業名	二十歳のつどい開催事業				

事業費	年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			142	849
財源内訳	国・県支出金			100	106
	その他				
	町 債				
	一般財源			42	743
					478

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町の将来を担う新成人の門出を祝うとともに、成人としての自覚を促し、さらなる成長を期する。	<input type="checkbox"/> 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・式典(国歌斉唱、町民憲章唱和、式辞、記念品贈呈、誓いの言葉) ・記念撮影 ・思い出ムービー上映
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
対象者数		161人	307人	157人
参加者数		0人	136人	98人
参加率		0%	44%	62%

事業評価	評 価 項 目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	令和4年4月1日から民法改正により、成年年齢が18歳に引き下げとなったが、従来どおり20歳の方を対象に、名称を「成人式」から「二十歳(はたち)のつどい」へ変更して開催した。式典は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に努めながら、静粛かつ厳粛に行われた。式典終了後に思い出ムービーを上映したことにより、小学校や中学校での思い出に触れ、印象に残るものになった。式典には、大人としての自覚をもって臨んでおり、成果は上がっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	式典に参加された方にとって、より思い出に残る式典となるよう、二十歳の方を中心とする実行委員会を組織し、企画・運営できる体制を整備したい。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 敦	
事業名	町立美術館の指定管理委託事業					
事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	決算額(千円)	25,907	27,508	28,584		
	財源内訳	国・県支出金	25,900		28,000	
		その他				
		町債				
一般財源	7	27,508	584			
事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	文化・芸術活動の交流拠点である美術館等の管理運営を指定管理者に行わせることにより、美術館等の設置目的を効果的に達成することを目的とする。			<input type="checkbox"/> 内容	
					<input type="checkbox"/> 常設展 <input type="checkbox"/> 特別展 「鷹山宇一・夢幻の世界に魅せられて～鹿内秀雄・牧子コレクション～」 「GOMA展」(仮称)青森放送創立70周年記念事業 「マニエル・ノワール 白と黒の世界 戸村春樹展」(仮称) 「第21回鷹山賞児童作品展/第21回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」 「第82回国際写真サロン展」	
事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	項目	入館者数	12,257人	15,422人	45,828人	
事業評価	評価項目					
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A	
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			B (イ)	
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A	
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A	
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A		
評価の説明	親しみやすい企画展を実施し、近隣美術館で行う企画展との差別化を図るなど運営面において工夫が感じられ、気軽に美術館に足を運び、文化や芸術を身近に感じ、学ぶ環境づくりに寄与している。 コロナ禍において、令和3年度と比較して入館者数が増加していることも考慮し、上記のように評価する。					
今後の取組・課題	<input checked="checked" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()		公共施設等マネジメント計画その他関連計画に基づき、管理運営方法やコスト、その他課題の解決に向け、持続可能で効果的な管理運営計画を早急に確立する必要がある。			

事業評価シート

事業細目番号	3(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	米内山 淳樹
事業名	文化芸術鑑賞事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	572	657	1,677	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		572	657	1,677	

事業概要	□ 目的	幼児や小中学生に対して、文化や芸術、異文化を体験できる場を提供する。また、多分野に対し興味を持つきっかけをつくりながら創造力の向上を図る。	□ 内容	令和4年度から、文化・芸術に寄与する事業の開催及び芸術鑑賞や体験を実施する町内のこども園、保育園、小中学校を対象に補助金を交付する。 各園、小中学校では、絵画教室、英語教室、習字教室、体操教室、エアートランポリン教室、バルーンアート教室、茶道教室などを実施した。
------	------	---	------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	鑑賞者数	1,850人	1,855人	5,322人

事業評価	評価項目	
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	

評価	評価の説明	各園、小中学校では触れる機会が少ない様々な芸術や文化を間近で触れることができる重要な事業である。当事業をきっかけに芸術関係の習い事を始めたケースもあり、成果は上がっている。
----	-------	--

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	当事業は総合戦略の中の「教育環境の強化など子育て環境の充実」に位置づけられている。町内の全こども園、保育園で芸術・文化の教育に取り組んでおり、毎年実施している教室のほか、県外講師を招いた新たな体験を取り入れている園もあり、ニーズが上がっていることから、今後も同様の体験事業を実施する。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 敦
事業名	七戸町民文化祭開催事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)	0	0	777
財源内訳	国・県支出金			
	その他			196
	町債			
	一般財源	0	0	581

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町民の自主的な文化・芸術活動を披露し、又は発表する機会を提供し、芸術文化に親しむ環境づくりを推進することにより、地域文化の振興を図ることを目的とする。	・舞台発表(町内文化団体) ・作品展示(町内文化団体、公民館講座、小中学校、こども園等)

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	参加団体数		中止	中止
入場者数				903人

事業評価	評価項目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を鑑み、飲食及び対面を伴うブースの出店及び園児、児童、生徒による舞台での演目披露を取り止め、規模を縮小した内容で開催した。来場者数並びに出演団体及び展示作品は前回と比べ減少したものの、町民の日頃の活動成果を披露したことにより、コロナ禍において落ち込み気味であった芸術文化活動に対する意欲を維持することができた。また、来場者が芸術文化作品に触れることにより、町民の芸術文化活動への参加意欲の喚起に資することができた。		

今後の取組・課題 <input checked="checked" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	出展・出演団体からのニーズは高いため、団体の協力を得ながら魅力あるイベントづくりをしていく必要がある。
--	---

事業評価シート

事業細目番号	3(2)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見真樹
事業名	世界文化遺産の保存・活用の推進				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		65,897	10,874
財源内訳	国・県支出金	15,290		
	その他			398
	町債	35,000		
	一般財源	15,607	10,874	414

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的		<input type="checkbox"/> 内容	
	世界文化遺産の構成資産となった「史跡ニツ森貝塚」について、青森県や地域住民などと連携を図り、保存、周知及び活用を図り、地域振興につなげる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ニツ森貝塚ふれあいまじりの開催 ・ニツ森貝塚の遺産影響評価及び経過観察 ・世界遺産保存活用推進協議会の出席 ・ニツ森貝塚PR看板の設置・更新 ・ボランティアガイドへの支援と協力 	

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	見学者(推定)	約1,000人	約5,565人	約5,893人
	プレハブ見学日誌帳者数	671人	—	—
	ニツ森貝塚館来館者数	—	5,957人	6,573人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
優先性が高い	低い		
評価の説明	ニツ森貝塚館において、ニツ森貝塚ふれあいまじりを開催し、火おこしや弓矢などの体験、ボランティアガイドによる遺跡の解説を行い、多くの来場者にニツ森貝塚と縄文文化を体験して頂いた。 また、イベント開催にはボランティアガイドや地域住民が運営に協力していただき、地域住民の保存と活用の意識高揚ができた。 世界文化遺産地域連携会議と連携し、スタンプラリーなどの事業を行い来訪者の増加につなげた。 開発行為等については、プロパティ内で1件、バッファゾーン内で2件あったが、いずれも資産への影響がなく、遺産影響評価を行う案件ではなかった。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	遺産影響評価及び経過観察のほか、県や関係機関等と連携し、世界遺産の保護と活用の充実を図っていく必要がある。 登録にあたって、イコモスから受けた勧告の不適合なインフラ要素の撤去もしくは影響低減については、不適格工作物である町道等の対応を、関係機関等と継続して検討していかなければならない。 史跡来訪者の受け入れの要となるボランティアガイドの養成が遅れており、引き続き強化していかなければならない。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(2)②	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	史跡二ツ森貝塚(史跡公園)の保護・活用				

事業費	財源内訳	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		決算額(千円)	1,074	1,159	2,245
	国・県支出金				
	その他			91	
	町債				
	一般財源	1,074	1,159	2,154	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	二ツ森貝塚史跡公園と史跡買上げ地の維持管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡公園駐車場、トイレ及びプレハブの清掃、復元竪穴建物跡の薫蒸、園内の草刈り作業等の業務委託 ・史跡買上げ地の維持管理(草刈)の業務委託 ・老朽化した見晴台の撤去工事

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	見学者(推定)	約1,000人	約5,565人	約5,893人
プレハブ見学日誌記帳	671人	—	—	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	史跡公園は、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である二ツ森貝塚の見学の場として、また町内小中学校の社会科見学の場として活用されており、維持管理の継続が必要である。維持管理区域を地域団体と町とに区分し、地域団体区域を地元住民団体との協働による管理を委託した。町管理区域の草刈り作業については、作業8回分を民間業者に委託した。また、史跡買上げ地は、年4回の作業を地元住民団体に委託した。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	世界遺産の構成資産として、解説板の設置や草刈り等の環境整備の充実を図る必要がある。また、既存の不適切な工作物等の撤去について検討が必要である。 町管理区域の草刈り作業は例年より1回多く、8回実施し適切に管理できたが、夏場は草の伸長時期に応じた作業調整をする。また、状況により作業回数を増やすなど適切な管理に努める。 委託業務の内容について、引き続き検討する必要がある。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	3(2)③	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	史跡七戸城跡の保護・活用				

事業費	財源内訳	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		決算額(千円)	2,196	3,364	6,122
	国・県支出金				
	その他	287	163	175	
	町債				
	一般財源	1,909	3,201	5,947	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	史跡七戸城跡と史跡買上げ地の維持管理を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東門トイレの清掃等の業務委託 ・史跡七戸城跡の維持管理(草刈、花菖蒲園)の業務委託 ・危険木伐採剪定業務委託 ・柏葉公園ベンチ修繕 ・柏葉公園(危険)遊具解体工事 ・御城印の販売
------	-----------------------------	------------------------	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	見学者(推定)			1,600人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	<p>昭和16年に国史跡指定された城跡で、一部公園となっているところは、町民等の憩いの場になっていることから、維持管理は必要である。</p> <p>史跡買上げ地は、地元シルバー人材センターに維持管理業務委託し、都市公園として整備された柏葉公園の維持管理は、民間企業に指定管理(財政課契約)している。</p> <p>施設設備の維持管理として、危険木伐採剪定、柏葉公園のベンチ修繕や老朽化した遊具の撤去を行った。</p> <p>御城印については、七戸町観光協会に販売委託を行い584枚を売上げ、城跡の維持管理費の財源に充てた。</p>			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	<p>花菖蒲園について、計画的な植替えと草取り等の維持管理ができるよう、委託事業者と協議を行いながら適切な管理に努める。</p> <p>史跡の維持管理等の委託業務の内容について、引き続き検討する。</p> <p>枯枝や枯れ木などの危険木の早期発見や老朽化した施設の修繕等、安全管理の強化が必要である。</p> <p>町村合併後、史跡整備が中断しているが、今後は残りの史跡土地買上げの計画と併せて、史跡整備を進める必要がある。</p>
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	3(2)④	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	史跡土地買上げ事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		0	0
財源内訳	国・県支出金	0	0	65,824
	その他			
	町債			15,600
	一般財源	0	0	857

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	国史跡二ツ森貝塚及び七戸城跡を保護するため、土地の買上げを行う。	<input type="checkbox"/> 内容	土地の買上げや移転補償を行うため、不動産鑑定及び建物等移転補償費調査委託を行い、適正な土地価格と補償額で買上げを行う。 ・史跡七戸城跡 地権者:3名、土地:6筆、地積2,026.75㎡ ・史跡二ツ森貝塚 買上げなし
------	-----------------------------	----------------------------------	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	二ツ森貝塚取得面積	0㎡	0㎡	0㎡
	公有化率	61.21%	61.21%	61.21%
	七戸城跡取得面積	0㎡	0㎡	2,026.75㎡
	公有化率	87.21%	87.21%	88.43%

		評価項目	評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	史跡二ツ森貝塚は、平成27年度に国史跡の追加指定を受け、平成27年度から毎年計画的に土地の買上げを行い、令和元年度で一段落した。七戸城跡は、昭和16年に国史跡指定、平成元年、12年と追加指定を受けている。買上げは昭和50年度から実施してきたが、平成20年度以降は財政的な余力がなくなり凍結してきた経緯がある。平成28年度と29年度に買上げを行ったことから、買上げの要望が再び強まり、道路沿いの住宅地2件を買上げすることが出来た。それにより、角館地区の城館の様子がよく見えるようになった。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	史跡二ツ森貝塚の公有化については、令和元年度で一段落したが、令和3年度に世界文化遺産の登録を受けた。このことから景観保全のため、資産から視認される住宅等の撤去が必要とされている。史跡七戸城跡については、残りの住宅地が4件となっている。両史跡ともに今後も所有者の意向を確認しながら遺跡保護のため、公有化を進めていく必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(2)⑤	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	二ツ森貝塚館の運営				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		決算額(千円)	—	9,542
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源		9,542	16,455

事業概要	目的	内容
	史跡二ツ森貝塚や縄文文化の魅力を伝えるガイダンス施設として、常設展示のほか、特別展示や体験活動などを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡二ツ森貝塚の資料の常設展示 ・勾玉づくりやプラバンストラップ作りなどの体験教室の実施 ・企画展「鉢森平(7)遺跡発掘調査速報展」の開催 ・二ツ森貝塚館の維持管理 (外壁改修調査設計業務委託、火災報知設備機器修繕工事 外)

事業効果	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		来館者数	—	5,957人

評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	史跡二ツ森貝塚のガイダンス施設として整備し、縄文遺跡群の世界遺産登録と相まって、多くの来館者を受け入れた。 二ツ森貝塚の魅力を伝えることができたほか、勾玉づくりなどの体験活動を通して、楽しみながら縄文文化の理解を深めてもらった。 企画展示室では、鉢森平(7)遺跡発掘調査速報展を開催し、七戸町内の文化財と縄文文化の魅力を伝えた。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	企画展示の開催や体験メニューの充実、堅穴住居や野焼き場など屋外での体験できる施設整備の充実を図る。 外壁改修調査の成果に基づき、外壁改修工事を施行していく。 また、老朽化した旧小学校校舎であるため、耐用年数を見極めた施設の維持管理が必要である。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(2)⑥	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	文化交流センターの管理				

事業費	財源内訳	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		決算額(千円)	245	434	105
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	245	434	105	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	文化交流センターは、歴史民俗資料展示施設としてのほか、文化財の保管場所になっており、その活用を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	・文化交流センターの2階の一部を歴史民俗資料展示室とし、当町の文化財資料を公開し、活用を図る。 ・南公民館の西野分館としての機能や避難場所になっているため、施設の維持管理を行う。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
利用者数	58人	26人	40人	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	B
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	C
評価の説明	文化交流センターは、平成17年度から児童館施設として、また歴史民俗資料展示施設として文化財の保管・保存、さらに体育館施設からなる複合施設として供用を開始した。その後児童館が廃止、常勤者もいなくなり、施設の公開・活用が難しくなっている。西野分館の活動の場所として、年数回利用されているほか、一般の利用はない。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者は少数であった。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	歴史民俗資料展示施設として、七戸町の歴史文化を紹介する事業の展開は必要であるが、二ツ森貝塚館の開設を踏まえ、展示内容の再構築等、センターの在り方について再検討の余地がある。また、公民館分館や避難所、選挙投票所として、老朽化した施設の維持管理を継続しなければならない。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(3)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	七戸町郷土芸能保存会支援事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		275	275
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	275	275	250

事業概要	□ 目的	□ 内容
	伝統芸能及び郷土芸能の保護と育成を目的に、町指定無形民俗文化財である神楽等の後継者育成や普及を行う。また、郷土芸能発表会の開催等、町内10団体の保存活動の支援を行う。	郷土芸能保存会補助金250千円(25千円×10団体) 「保存会活動内容」 ・郷土芸能発表会の開催 ・各種イベントへの出演 「支援事務の内容」 ・保存活動費の補助 ・イベント主催者との連絡調整 ・保存等に関する助成事業の情報提供

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
項目				
加入団体数		11団体	11団体	10団体
加入団体会員数		212人	195人	159人

事業評価	評価項目	評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない	B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	少子高齢化などの社会環境の変化により、後継者不足問題が解決の目途が立たないことや、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によるイベント等の開催が中止されるなど、活動発表の場が激減し、郷土芸能の保存と伝承はますます厳しくなっている。 支援補助金は、各団体一律であるが、それぞれに研鑽に励んでおり、活動の一助となっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	少子高齢化による踊り手不足により活動ができなくなり、保存会からの脱退が生じてきており、後継者育成が一番の課題である。今後、学校行事や放課後子ども教室と連携するなど、地域を限定しないアプローチによる後継者探しが求められる。 また、デジタルを活用した郷土芸能の後世への伝達、記録を継承していく方策を検証する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	小又 葉
事業名	七戸町ジュニアスキー・スノーボードスクール				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		140	0
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	140	0	120

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スキーの基本練習を通し、技術の向上とスキーの楽しさを体感するとともに、健康及び体力の増進を図ることを目的とする。また、参加者同士が行動をともにすることにより、望ましい人間関係を育む。	<input type="checkbox"/> 内容	・対象 町内の小学生(1年～6年) ・講師 七戸町スキークラブ員 ・回数 3回

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
延べ参加者数		264人	中止	135人

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	アルペンスキー・スノーボードの講習会として町内の小学生を対象としており、雪国の冬期間のスポーツとして、また、他校の生徒との交流の場として、町民のニーズは高い。また、スキークラブと連携し、継続した参加に向けた取組として、講習内容など改善が図られている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各小学校でもスキー教室は行っているが、その機会は少なく、町主催のスキー教室の継続は必要である。また、よりウィンタースポーツに慣れ親んでもらうため実施しているスノーボード講習会について、継続して取り組めるよう関係団体と協議を行う。スキー教室の成果の場として開催する、スキー大会(町スキークラブ主催)への参加者増加に向けた検討を行う。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	スポーツ協会加盟団体によるスポーツ大会				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	304	1,601	1,702	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	164	951	742
		町債			
	一般財源	140	650	960	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	スポーツ協会加盟団体による教室及び大会開催費に対する支援をすることで、地域スポーツ活動の普及・奨励に努める。各競技による通常の大会とは別に、広く町民を対象とした生涯にわたるスポーツライフの実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ協会加盟団体主催ナイターリーグ大会 (バドミントン競技) ・スポーツ協会加盟団体主催大会等 (ソフトテニス大会、ゲートボール大会、剣道大会、朝野球大会) ・スポーツ協会加盟団体主催教室 (ジュニアベースボールスクール)

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	教室・大会数	3大会	5大会	1教室5大会
	参加者数	313人	687人	718人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多数の大会が中止となったが、ジュニアベースボールスクールを3年ぶりに開催した。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことから今後は全大会が開催する見込みであり、町民からのニーズは高い。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	新型コロナウイルス感染症の影響で多くの大会を開催できなかったが、感染症対策ガイドラインを踏まえ大会を充実させて町民のニーズに応えていきたい。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	4(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	田嶋 友希
事業名	青森県民駅伝競走大会				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	0	25	685	
	財源内訳	国・県支出金	0	22	60
		その他			
		町債			
一般財源	0	3	625		

事業概要	□ 目的	大会を通じて七戸町民の一体感を高めるとともに、スポーツ(陸上競技)に対する理解と関心を高め、活力ある町づくりとスポーツ振興を目的とする。	□ 内容	県内全40市町村が参加し、青森市内の9区間を市町村の部でそれぞれ競う。令和4年度は代替コースで開催。 選手 ・一般男子 6人(一般 4人 高校生 2人) ・中学生男子 4人 ・女子 4人(一般 2人 中学生 2人) ・小学生男子 2人 ・小学生女子 2人
------	------	--	------	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目	開催中止	開催中止	町の部 6位 総合 16位

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A	
	評価の説明	町民が一体感を強めることができるスポーツイベントで、毎年入賞を目指し監督、コーチを中心に練習会や選考会等を開催し、選手の強化を図っており、県内トップクラスの選手も育成されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	中学生以上女子区間と一般男子を走る選手の確保が課題であり、監督及びコーチと連携し選手の発掘を行う。 今後も毎戸配布をするなど、広報活動に積極的に取り組み、新戦力の発掘及び県民駅伝大会の更なる周知を図る。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(2)②	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	スポーツ協会補助事業				

事業費	財源内訳	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		金額(千円)		金額(千円)		金額(千円)	
	国・県支出金						
	その他	420		420		420	
	町債						
	一般財源	1,459		1,790		2,002	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ協会及び加盟団体への活動支援を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ協会及び加盟団体の活動(組織運営・事業等)に対する支援事業

事業効果	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目				
	体育協会加盟団体数		21団体	21団体	21団体
	体育協会加盟人数		612人	818人	721人

事業評価	評価項目		評価
		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
	評価の説明	スポーツを通じた町の活性化を図るためには、スポーツ協会の力が必要不可欠であり、組織運営上の支援としては最低限補助できている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	競技人口が減少傾向にあるため、指導者の育成や幼少期からの育成等、スポーツ活動を推進する人材育成に向けた取組みを各加盟団体と協議、検討していく。 また、自主事業として、各種講習会等の開催を検討し、体育協会員の体力向上及び交流を図っていく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(2)③	担当課	生涯学習課	担当者	小又 菜
事業名	七戸町スポーツ少年団活動費補助事業				

事業費	財源内訳	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		金額(千円)		金額(千円)		金額(千円)	
	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源	1,400		1,146		1,142	

事業概要	□ 目的	町民の健康維持・増進及び体力・競技力の向上、更には次世代を担う子どもたちへのスポーツの普及と健全育成を図るため、町内で子どものスポーツ活動を行う団体へ支援する。	□ 内容	七戸町からスポーツ少年団へ補助 補助対象経費 大会参加費、需用費、旅費、役務費、使用料及び賃借料、保険料、登録料、負担金等、指導者講習費 ※食糧費、備品購入費、人件費、報償費は補助対象外
------	------	--	------	--

事業効果	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目	単位			
	単位団		18団	17団	17団
	登録者数		326人	319人	325人

事業評価	評価項目			評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い		B 町民ニーズは低い(ない)	A
		②妥当性(町が行うべきですか)			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている		B 成果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない		B コスト削減の余地はある	A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)			A
評価の説明	A (75%)		B (50%)	C (25%)	
	優先性が高い			低い	
地域主体のスポーツ少年団が活動する上で、活動費の補助や強化事業による支援は今後も必要である。活動費の補助や強化事業による支援により、各団体の活動の幅が広がっている。					

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	スポーツ少年団を更に活性化していくために、団員の確保のための取り組みを本部役員及び各単位団長と協議し行っていく。 補助金交付要綱を見直した結果、活用方法や事業実績に課題がないかを確認していく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(2)④	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	スポーツ協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			0	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ協会及び加盟団体が町代表として地区大会及び上位大会出場機会を支援し、競技力向上と指導者の資質向上を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の実施なし。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	-----------------------------

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	上北郡総合体育大会参加者数	中止	中止	中止
	北奥羽総合体育大会参加者数	中止	中止	中止
	青森県民体育大会参加者数	中止	中止	中止
	全国東北大会出場数			

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種大会が中止となったが、今後、大会が開催されることになれば町代表として出場する大会への派遣費であり、選手強化に伴う成果及び競技人口の維持増加や生涯スポーツ活動の推進に必要な事業である。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町代表として出場する大会への派遣費であり、優勝する競技があるなど選手強化につながっていることから今後も予算確保に努める。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)⑤	担当課	生涯学習課	担当者	工藤 且仁
事業名	七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	273	230	1,751	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	273	230	1,751		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	上位大会出場機会を支援することで、競技力の向上、競技スポーツの振興、生涯スポーツ振興を目的とする。	町内スポーツ少年団及びスポーツ協会加盟団体等が、予選を経て東北、全国大会に出場する場合の対象経費(交通費宿泊費等)を補助する。 ・県予選の有無や参加チーム(選手)数により補助率を設定 (例:スポーツ少年団:対象経費1/1、スポーツ協会加盟団体:対象経費1/2、一般関係:対象経費1/3)

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	スポーツ少年団	5件 4団体 (11名)	7件 4団体 (11名)	22件 18団体 (40名)
		273,000円	230,000円	1,191,000円
	一般			6件 6団体 (45名)
			560,000円	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	東北大会以上の大会参加を支援することにより、競技団体及び競技者の高いレベルでの競技力強化や生涯スポーツ活動の推進につながっている。 新型コロナウイルス感染症の影響が低下し、多くの競技で東北大会、全国大会に参加することが予想されることから、今後も必要な事業である。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	申請状況等を踏まえながら、引続き必要に応じて補助対象経費及び補助金額の見直しを検討する。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(3)①	担当課	生涯学習課	担当者	田嶋 友希
事業名	スポーツ推進委員研修				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			145	228
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			145	228

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域におけるスポーツ活動の普及と振興を図る人材を育成する。	<input type="checkbox"/> 内容	地域住民のスポーツ事業の実施に係る連絡調整及び町民に対するスポーツの実技指導のほか、スポーツに関する指導及び助言を行う。また、講習及び研修会の実施やスポーツ活動の普及に努める。また、推進委員の資質向上のため、積極的に研修会等へ参加する。

事業効果	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目				
スポーツ推進委員数			12名	11名	11名
会議数(行事数)			9回	9回	9回

事業評価		評価項目	評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	スポーツ活動の普及並びに指導のため、各地区で開催される研修等に参加しスポーツに対する意識向上に努める。また、町民に対する軽スポーツの指導等の活動も随時実施していく。町民スポーツレクリエーション祭を主催実施するなど軽スポーツの普及に努め、地域スポーツ推進に大きな役割を果たしている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	生涯スポーツの普及、事業の充実を図るため、健康増進生涯スポーツ普及事業(軽スポーツの集い、スポーツ指導者講習会、町民スポーツレクリエーション祭)を引き続き行う。また、事業の効果を高めるため、事業内容の見直しや、委員の資質向上を図る。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	田嶋 友希
事業名	スポーツ顕賞表彰				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			74	98
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			74	98

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ活動において、顕著な成績を収めた者、町民の健康福祉の増進に功労があった者又は広く町民の模範となるべき者を顕賞する。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ顕賞(スポーツ功労賞、スポーツ賞、スポーツ優秀賞、生涯スポーツ奨励賞)の顕賞を行う。 各種団体、県内外の高校から推薦基準に基づき推薦を受け、七戸町スポーツ顕賞審議会で審議し、顕彰者を決定する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	スポーツ功労賞受賞者数	該当者なし	個人1名	個人1名
	スポーツ賞受賞者数	個人1名	個人1名	個人1名
	スポーツ優秀賞受賞者数	個人1名	個人6名	個人9名
	生涯スポーツ奨励賞受賞者数	該当者なし	該当者なし	該当者なし

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体を顕賞し、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各賞の種目及び大会種類による推薦基準の見直しを行ったことから、各種団体及び関係者等への周知を図り、候補者の推薦を円滑に行う。 また、必要に応じて推薦基準の見直しを行う。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(3)③	担当課	生涯学習課	担当者	佐々木 祐一
事業名	各種大会開催や合宿等の誘致				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		0	0
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町内にある、スポーツ施設の利用促進を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各種大会及びイベント事業等の開催を誘致した。

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	大規模な大会・イベント集客数	七運/7月:町長杯サッカー大会 500人	七運/4月:七戸町はつらつ杯少年サッカー大会 800人	七運/4月:七戸町はつらつ杯少年サッカー大会 800人
	//	七体/12月:フットサルウインターカップ 300人	七運/5月:高校野球春季県大会 600人	七運/6月:県スポフェス軟式野球競技会 500人
	//		七体/7月:防犯剣道大会 200人	七体/7月:防犯剣道大会 200人
	//		七体/12月:フットサルウインターカップ 400人	七体/12月:フットサル交流戦 400人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	規模の大きな大会及びイベントを開催することで、施設の利用促進につながり、町の大きなPRにもなる。また、県大会以上のレベルの高い試合に接する機会を提供できる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	七戸体育館は耐震判定指標を満たしていないため、大会の開催等について利用を制限している。 各施設の利用状況や維持更新費等を踏まえ、施設の集約と整備を計画的に進めると共に、利用方法や料金体系等の見直しを検討する。 また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、大会や合宿の誘致に努め、施設の有効活用を図る。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)③	担当課	七戸中央公民館	担当者	中嶋 正弥
事業名	中央公民館講座開設事業				

事業費	年度	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		決算額(千円)		109		75	
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源		109		75		105

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域住民の知識、教養を高め、健康の増進を図り、心豊かで潤いのある生活ができるようにする。講座を契機とした自主活動、グループ作りに繋げる。	<input type="checkbox"/> 内容	令和4年度は次の講座を実施した。(全7講座) ・フィットネス教室 ・着付け体験教室 ・アロマジェルキャンドル教室 ・そば打ち体験教室(前期・後期) ・ストレッチ運動教室(前期・後期)
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	項目	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		講座数		7講座		5講座	
	参加者数		延人数160人		延人数97人		延人数200人

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	新型コロナウイルス感染対策を徹底し、7講座を実施した。その中でも健康に関する講座が特に人気があった。参加者も10代から80代と幅広く、参加者同士の交流の場となっている。参加者の満足度は概ね高く、本事業はより一層の充実が望まれるため優先性は高いといえる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	対象者、有効性、公平性等をより一層見極め、町民のニーズを考慮した講座を継続しなければならない。 また、講座をきっかけとした自主運営団体を奨励し、助言や支援に努めていく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)④	担当課	七戸中央公民館	担当者	田嶋 邦貴
事業名	寿大学開設事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		42	65
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	42	65	65

事業概要	□ 目的	□ 内容
	高齢者の生きがいづくりのため、「健康・教養・趣味」の3分野を軸に各種講座を開催し、社会教育活動に参加できる機会の提供を目的とする。	令和4年度は次の講座を実施した。(全10講座) <ul style="list-style-type: none"> ・開講式、火災予防講座 ・グラウンドゴルフ教室 ・町外視察研修(是川縄文館) ・手工芸教室(壁飾り) ・郷土芸能教室(舞踊) ・手工芸教室(アロマワックスサシェ) ・健康体操教室 ・料理教室(串団子) ・健康教室(フレイル予防) ・閉講式、健康講話

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
開催数		8回	8回	10回
参加者数		延人数121人	延人数139人	延人数150人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	B (エ)
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
評価の説明	昨年に引き続きコロナ禍ではあったが、受講生はそれぞれの事業に楽しく参加していた。町外施設研修では、世界遺産のひとつである八戸の是川遺跡にある是川縄文館を見学し、ニッ森貝塚との比較などしながら見学をしていた。特に受講生は高齢者であることから、町外への施設見学のほか、受講者同士の交流を楽しみしている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	人口減少等により、寿大学の受講者数も減少傾向にあることから、柏葉大学との合同で開催する事業を増やすなど工夫が必要である。また、事業の内容も今の時代に応じたプログラムを計画していくことで、マンネリ化を防ぐと共に、新たな受講者が増えるよう取り組む。
----------	---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	5(1)⑤	担当課	七戸南公民館	担当者	氣田 雅之
事業名	柏葉大学開設事業				

事業費		年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
		決算額(千円)	34	52	45	
	財 源 内 訳	国・県支出金				
		その他				
		町 債				
一般財源		37	52	45		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	高齢者の生き甲斐づくりのため、「健康・教養・趣味」を軸とした各講座を開催し、社会教育活動に参加する機会を作る。	<input type="checkbox"/> 内容	生涯学習のさらなる向上、充実を図るため、次の講座を実施した。(全10講座) ・開講式、火災予防講話 ・健康体操教室 ・町外視察研修 ・パークゴルフ教室 ・手工芸教室 ・歴史教室 ・手芸教室 ・グラウンドゴルフ教室 ・健康教室 ・閉講式、健康講話

事業効果		年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目	開催数	9回	10回	10回
		参加者数	延人数152人	延人数155人	延人数127人

事業評価	評 価 項 目				評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)				A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他				A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない				A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない				A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				B (エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い				A
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染予防を徹底しながら各種講座を開催した。この事業は60歳以上の方が対象のため、高齢者のニーズに応えられるよう創意工夫している。参加者の評価は大変よく、来年も参加したいとの声がほとんどを占めている。参加している高齢者も生き生きして講座を楽しんでいる。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	高齢者のニーズに合った講座を企画立案し、より一層の生き甲斐づくりと社会教育活動に参加する場の提供に役立つよう努力していく。また、男性の参加者を増やすため、講座内容の工夫や、新規講座を検討し参加意欲を引き出す必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑥	担当課	七戸南公民館	担当者	天間 正子
事業名	七戸南公民館講座開設事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		146	102	112
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		146	102	112	

事業概要	目的	内容
	地域住民の知識、教養を高め、健康の増進を図り、心豊かで潤いのある生活を目指す。講座を契機とした自主活動、グループ作りにつなげる。	地域住民や時代の要請に応じた生涯学習講座として次の講座を実施した。(全9講座) ・ピラティス教室 ・きもの着付け教室 ・世界文化遺産登録1周年記念講座 ・エコクラフト教室 ・クレパスアート教室 ・ピラティス栄養講座 ・ステンドグラス教室 ・そば打ち教室 ・おもちゃづくり教室

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	講座数	10講座	9講座	9講座
	参加者数	延人数284人	延人数136人	延人数245人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底しながら、9講座全19回を開催した。生涯学習事業の要とも言える事業であり、より一層の充実が望まれるため、優先性は高い。参加者の満足度は概ね高く、充実しているといえる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	いずれの講座も満足度は高く、内容は充実しているといえる。今後も町民のニーズに合わせて事業を展開していきたい。また、若い世代が参加しやすいように、講座の時間帯を検討していく必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑦	担当課	七戸南公民館	担当者	天間 正子
事業名	七戸南公民館分館事業				

事業費	財源内訳	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		決算額(千円)	520	510	583
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	520	510	583	

<input type="checkbox"/> 目的 地域住民の知識、教養を高め、健康の増進を図り、心豊かで潤いのある生活の増進に努める。	<input type="checkbox"/> 内容 七戸中央区以外の4地区(野々上、西野、倉岡、鶴児平)に分館を設置し、各地区において特色のある事業を展開し、地域の生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。事業内容は、運動会・各種学習会・環境整備等を委託する。
--	--

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目	分館数	4分館	4分館

事業	評価項目	評価
事業 評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	新型コロナウイルス感染症の影響により例年通りの活動ができず、各種事業の縮小や中止により委託料の一部返還が生じた。 分館の地域性、独自性を持って、地域住民のニーズに沿った事業を実践することにより、地域コミュニティをより充実させる事を目標に、引き続き分館における課題を協議し、各分館の連携を図ることが必要である。	

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	分館は、地域性を活かした事業を実行するように努めるとともに、分館間での情報共有の機会を設け、意見を交換している。 今後は、情報共有に基づき、地域課題を見つけ、それに重点を置いた事業を展開することが望まれる。
---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	5(2)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	町屋 さおり
事業名	七戸町連合婦人会育成事業				

事業費	年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決 算 額(千円)		360	360	400
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
一 般 財 源		360	360	400	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	婦人の社会的地位の向上と婦人会組織の育成を目的とする。	婦人会活動に対する助言、指導等を行い、研修会、芸能発表会、ボランティア活動を自主的に計画実施、さらに各種研修会、七戸秋まつり流し踊り等の町内イベントへの参加を支援する。

事業効果	年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項 目				
	加入単位数		5単位	5単位	5単位
	会員数		96人	91人	85人

事業評価	評 価 項 目		評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		B (イ)
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		B
評価の説明	婦人会の現行組織は、概ね自立運営されている。各種研修会やボランティア活動を自主的に計画実施し、また町の行事へも積極的に参加し、地域に貢献している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	会員数は年々減少しており、また新規加入者が少なく、組織の後継者の確保が難しい現状である。地域に根ざした活動を積極的に行い、新規会員の加入促進を図る必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(2)③	担当課	七戸中央公民館	担当者	町屋 さおり
事業名	中央公民館だより発行事業				

事業費	年度															
	令和2年度				令和3年度				令和4年度							
財源内訳	決算額(千円)				0				0				0			
	国・県支出金															
	その他															
	町債															
	一般財源				0				0				0			

事業概要	□ 目的	□ 内容
	中央公民館の活動に関する多種多様な情報を提供し、意識高揚と啓蒙を図る。	中央公民館事業に関わる情報紙「中央公民館だより」を全世帯に配布する。 主に中央公民館講座のお知らせと参加申し込みが内容となっている。

事業効果	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
項目				
延べ毎戸配布世帯数	31,598世帯	26,522世帯	23,925世帯	

評価項目			評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		B
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		C
評価の説明	「中央公民館だより」は、中央公民館講座のお知らせと参加申し込みが主な内容となっており、令和4年度は5回随時発行した。年度当初に年間の講座を募集することにより、発行の必要性は低いと考えられる。なお、学習成果の発表については、町ウェブページの活用、公民館内における活動状況の掲示、文化まつり等での発表等により行う。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	公民館講座の募集方法を見直し、「中央公民館だより」は、令和4年度をもって廃止する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	6(1)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	町屋 さおり
事業名	中央公民館図書室事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			674	815
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			674	815

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	図書、記録その他必要な資料を「収集・整理・保存」して一般市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するという、図書館法に基づいたサービスを実施する。	<input type="checkbox"/> 内容	図書室資料の収集、整備、貸出、レファレンスサービス、巡回貸出、集会行事などを実施する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
年間開館日数		293日	249日	318日
図書購入費		528千円	664千円	522千円
年間貸出冊数		4,874 冊	4,166 冊	4,017 冊
年間利用者数		1,439 人	1,040 人	1,130 人

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(市民が必要としていますか) A 市民ニーズは高い B 市民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	図書室の利用者のニーズに対応した資料提供ができるように、蔵書のバランスを考慮し、一般図書と児童図書を収集整備した。貸出、予約、リクエストサービス等を充実し、図書室サービスの向上に努める。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	図書購入費を有効に活用し、市民のニーズに対応しながら継続して収集整備をしていく必要がある。 また、館内を利用しやすいように環境整備を行うとともに、市民に広報等を活用し、図書情報などをPRする必要がある。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	6(1)②	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	図書館サービス事業				

事業費	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	決算額(千円)	10,087	9,797	9,797	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	10,087	9,797	9,797	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	図書、記録その他必要な資料を「収集・整理・保存」して一般町民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するという、図書館法に基づいたサービスを実施する。	図書館資料の収集、整備、貸出、レファレンスサービス、巡回貸出、集会行事などを実施する。

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	年間開館日数	293日	248日	327日
	図書購入費	530千円	764千円	622千円
	年間貸出冊数	8,799冊	7,305冊	8,587冊
	年間利用者数	2,694人	2,231人	2,641人

事業評価項目			評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	図書の収集については、蔵書バランスに考慮するとともに、郷土資料の収集や七戸町関連の新聞記事をスクラップし、利用の推進を図っている。また、限られたコストで十分な資料提供をするため、他館からの借受等を活用し、利用の推進につなげている。 新型コロナウイルス感染防止の観点から利用制限等を行っているため利用者数は減少しているものの、本事業は安定しており定着していると評価する。		

今後の取組・課題	<input checked="checked" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	限られた予算、人員、施設の中で、できる限りのサービスを提供し、今後も図書館サービスの充実に努める必要がある。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	6(1)③	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	図書館協議会の運営				

		年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
		決算額(千円)		77	114	91
事業費	財源内訳	国・県支出金				
		その他				
		町債				
		一般財源		77	114	91

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	図書館法に基づく図書館協議会の招集、運営を行う。	委員は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館サービスについて館長に対し意見を述べる。図書館は、委員の意見をもとに業務の改善に取り組む。

		年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業効果	項目	協議会委員数		9名	9名	9名
		開催回数		2回	2回	2回

		評価項目			評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	委員から出された意見は可能な限り、その都度図書館運営に反映させ、事業の改善を行っている。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も継続して取り組んでいく。
----------	--	-----------------

事業評価シート

事業細目番号	6(2)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	町屋 さおり
事業名	ボランティア活動の育成支援事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			0	0

事業概要	□ 目的	町民の読書活動支援のため、ボランティア活動の促進を図ることを目的とする。	□ 内容	ボランティア会員と連携協力し、小学校での朝の読み聞かせやおはなし会を開催する。 読書活動に関する各種研修会やイベントへの参加を促進する。

事業効果	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目				
朝の読み聞かせ回数			8回	9回	9回
朝の読み聞かせ参加者数			907人	1,071人	1,026人
絵本の読み聞かせ回数			0回	0回	0回
絵本の読み聞かせ参加者数			0人	0人	0人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	会員が自主的に学習会を開き、スキルアップのために読書活動に関する各種研修会等に参加し、読み聞かせ活動をしていることは素晴らしいことで、成果が上がっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、こども園での絵本の読み聞かせは実施していない。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も各種研修会やイベントの情報を提供し、会員の更なるスキルアップのために支援していく。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	6(2)③	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)		87	97	87
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		87	97	87	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもがあらゆる機会、場所において、自主的に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会の開催や絵本の展示による啓発活動 ・7ヶ月児健診を利用したブックスタート事業 ・学校巡回配本(月1回/低・高学年別) ・県立図書館事業「子どもの読書活動推進のための図書セット貸出」事業を利用した巡回配本。(保育園・幼稚園対象:家庭での読み聞かせ用絵本) ・読み聞かせボランティアの育成

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	ブックスタート実績	73人	45人	50人
	おはなし会実績	2回/31人	1回/15人	1回/9人
	学校配本実績	896人/2,223冊	1,045人/2,942冊	2,361人/4,399冊
	図書セット巡回配本	こども園・保育園 3か所	こども園・保育園 3か所	こども園・保育園 3か所

評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会をはじめとした各種事業を実施し、子どもの読書への関心を高める活動を行っている。また、図書ボランティアの育成に関する支援も行っている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	「七戸町子ども読書活動推進計画」をもとに、今後も継続して取り組んでいく。また、ボランティアの育成については、新規会員の確保も含め、支援を行っていく必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	6(2)④	担当課	七戸中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	ボランティア活動の育成支援事業				

事業費	年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	決算額(千円)			0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			0	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町民の読書活動支援のため、ボランティア活動の促進を図ることを目的とする。	城南・七戸小学校、それぞれでボランティアによる朝の読み聞かせを実施している。また、おはなしのへや会員による児童センターでのおはなし会を開催している。

事業効果	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	項目			
	七戸小学校ボランティア貸出冊数	16冊	23冊	45冊
	城南小学校ボランティア貸出冊数	12冊	12冊	44冊
	児童センター読み聞かせ会	1回	1回	1回

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	七戸・城南小学校の朝の読み聞かせは、個人ボランティアと学校との連携が確立している。また、おはなしのへや会員による児童センターでの読み聞かせを実施し、その後の児童の図書館への来館数増加につながっており、児童読書活動の促進が達成されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も研修会等の情報を提供し、会員の更なるスキルアップのために支援していく必要がある。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	6 (2) ⑤	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	生涯学習の推進・支援事業				

事業費	年度	令和2年度			令和3年度			令和4年度						
		決算額(千円)				0			0			0		
	財源内訳	国・県支出金												
		その他												
		町債												
一般財源				0			0			0				

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民への学習機会の提供及び学習活動の支援を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	・図書館講座の開講 ・読書団体等への資料提供や、イベントへの協力等 (“とっておきの話”懇話会)
------	-----------------------------	--------------------------	-----------------------------	--

事業効果	項目	年度		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	図書館講座回数	0回	0回	0回
	延べ参加者数	0人	0人	0人
	読書団体事業回数	0回	0回	0回
	延べ参加者数	0人	0人	0人

事業評価	評価項目			評価	
	事	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A
	業	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	図書館を利用して研究等を行っている町民が中心となり、町の人や歴史にまつわる逸話を発表する場として「“とっておきの話”懇話会」を開催しており、その運営の協力、後援を行っている。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止とした。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も継続して取り組んでいく。
----------	--	-----------------